



2026年12月期 第2四半期決算説明資料

セカンドサイトアナリティカ株式会社
(東証グロース市場 5028)

2026年8月14日

1. 事業概要
2. 2026年12月期 2Q決算サマリー
3. 2026年12月期 2Q決算概要
4. 事業の進捗
5. Appendix

1. 事業概要

2. 2026年12月期 2Q決算サマリー

3. 2026年12月期 2Q決算概要

4. 事業の進捗

5. Appendix



データから、新たな価値を。

- 日本を、データ活用先進国へ -

セカンドサイトアナリティカは、
ワンストップでアナリティクス・AIの課題抽出～開発・導入～活用のサービスを提供する
「アナリティクスを活用したビジネス価値創造企業」です

クライアントに合わせた最新のアナリティクス・AIサービスを提供するアナリティクス専門の企業

会社名	セカンドサイトアナリティカ株式会社 (SecondXight Analytica, Inc.)	
設立	2016年6月	
代表者	高山 博和	
役員構成	取締役会長	加藤 良太郎
	代表取締役社長	高山 博和
	取締役副社長	深谷 直紀
	取締役(社外)	河本 尚之
	取締役(社外)	伊勢 康永
	常勤監査役(社外)	磯野 薫
	監査役(社外)	品川 理絵子
	監査役(社外)	福崎 剛志
技術顧問	京都大学 名誉教授 IEEE Life Fellow	酒井 英昭
	京都大学 大学院情報学研究科 教授	林 和則

経営理念

「データから、新たな価値を。」

セカンドサイトアナリティカは、
ワンストップでアナリティクス・AIの課題抽出～開発・導入～活用のサービスを提供する「アナリティクスを活用したビジネス価値創造企業」です

本社所在地	東京都千代田区神田西福田町3番地 RBM神田ビル6F
資本金	361百万円 (2026年6月末)
事業内容	アナリティクスとテクノロジーを活用したサービスを提供する専門企業
グループ会社	Break's株式会社

カスタムメイド型データ分析主体のアナリティクスコンサルティングとAIプロダクトの事業構成。課題発見～導入・運用サービスを通じ、ワンストップで業務を支えるアナリティクスサービスを提供

							
音声・動画 データ	画像 データ	有償 データ	業務データ (DBデータ)	ログデータ (Webログ)	センサデータ (IoTデータ)	オープン データ	ソーシャル データ

アナリティクス コンサルティング (課題解決のためのきめ細かなコンサルティング)

データ分析コンサルティング・アドバイザー

- データ分析から得られる示唆を基にして、ビジネス課題の解決支援・実行支援
- 統計・機械学習モデルを効果的に活用するための業務支援や、レポートを通じた経営判断の質・スピードの向上支援

機械学習モデル構築支援

- 既存データを元に、ビジネス課題を解決する統計・機械学習モデルの構築・改善
- モデル開発のためのデータ収集やクレンジング、データ変換技術のサポート

データ収集



分析



変換



活用

AIプロダクト

(高度で迅速なAIパッケージ導入とAIプロダクト提供)

カスタムメイド型AIパッケージ提供

- 実務面で必要な運用機能を備えた機械学習モデル実行基盤の導入
- 基幹システムのデータだけでなく、ログや画像等の各種データを蓄積・分析できる基盤の導入

拡販型AIプロダクト提供

- モデル開発を含むデータ分析のノウハウをサービス化し、SaaS型サービスとして提供
- 協力企業のデータを活用し、モデルを通じてデータの価値を提供

金融業界から決済や流通・小売等の非金融業界まで、データ分析コンサルティングやAIモデル構築支援の実績が蓄積

< 決済 >

- ・ 携帯キャリア決済の与信枠算定モデルの構築・活用支援
- ・ 不正検知モデル(トランザクション)の構築・活用支援
- ・ データ活用促進アドバイザリ・コンサルティング
- ・ 決済情報を活用したデータドリブン型事業企画支援
- ・ 決済加盟店審査業務の改善支援

< 官公庁 >

- ・ AI利活用ガイドラインの策定 / AI利活用eラーニングコンテンツの作成

< 流通・小売 >

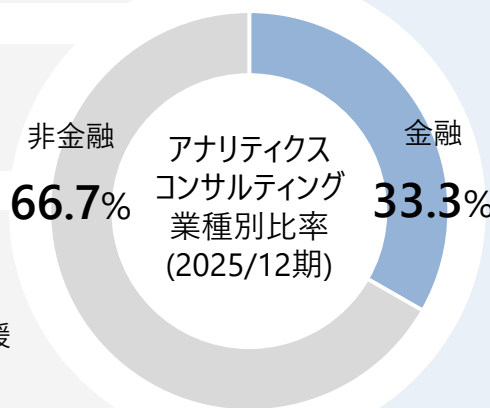
- ・ AIを用いた電子書籍のラベリング業務の効率化支援
- ・ 中古車の販売店・価格の最適化モデルの構築・活用支援
- ・ 小売店舗の来店者数予測モデルの構築・活用支援
- ・ ダイナミックプライシングモデルの構築・導入支援

< 建設・不動産 >

- ・ 5Gを活用した線路障害物検知・列車検査モデルの構築
- ・ AIを用いた建設事業の安全確認・品質管理業務の改善
- ・ 賃貸入居者審査モデルの構築・活用支援
- ・ 不動産価格推定・賃料査定モデルの構築・活用支援

< 金融 >

- ・ カードローンの事前与信モデル/人的審査モデルの構築・活用支援
- ・ 個人向け与信モデル/後払い与信モデルの構築支援 (国内・海外)
- ・ 不正検知モデル(トランザクション・顔認証)の構築・活用支援
- ・ 生命保険販売員のコンプライアンス検知AIの導入支援
- ・ オートリース事業における残価・与信・メンテナンス料予測モデルの構築・活用支援
- ・ 個人IDカード偽造検知・マスク顔対応の顔認証AI
- ・ M&Aマッチングモデルの構築・活用支援
- ・ 中小零細企業向け与信モデルの構築・活用支援
- ・ AIを用いた金融商品のターゲティング & クロスセル
- ・ AIを用いたクレジットカード利用促進支援(マーケティング・オートメーション)
- ・ 申込予測AIを用いたカードローン店舗の出店戦略策定・実行支援
- ・ 生成AI技術を用いた銀行窓口業務の効率化



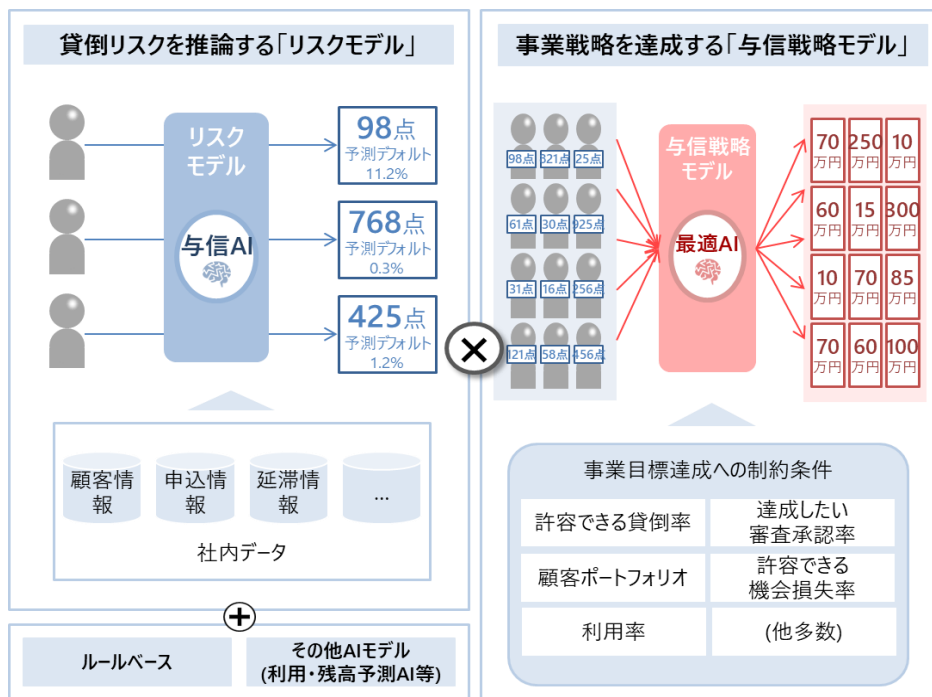
< その他 >

- ・ 食料品在庫適正化に係るデータ分析コンサルティング
- ・ 大都市病院での視覚情報解析AI活用による医療体制の充実・強化
- ・ 病院食の摂食量算出AI & 献立スケジュール自動生成AI構築支援
- ・ 機械故障の原因推定モデルの構築・活用支援

アナリティクス・AIは、利益やコストだけでなく、ESGを含む経営全体の最適化を実現する戦略的手段

金融与信战略×AI

クレカ・ローン・保証・決済等の領域にて、事業戦略に沿った審査・与信判断をAIが実施。コスト減・売上増はもちろんのこと、顧客ポートフォリオのコントロール等も実現

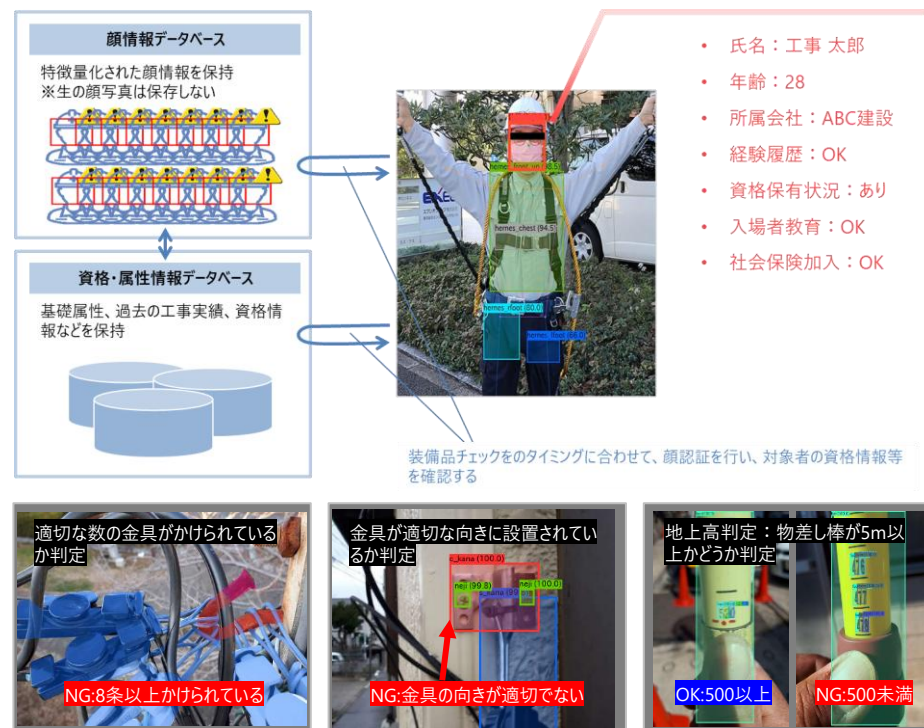


💡 AI導入の効果

- ✓ クレカの途上与信戦略にAIを導入することで年間利益21億円改善
- ✓ 通信キャリア決済の与信にAIを導入することで年間利益5億円改善

建設・プラント現場 × AI

作業員がカメラの前に立つだけで、映像からAIが「保持資格」「装備品状態」等を全て自動でチェック。工事開始前の安全チェック、工事完了後の品質チェックもAIが自動で判定



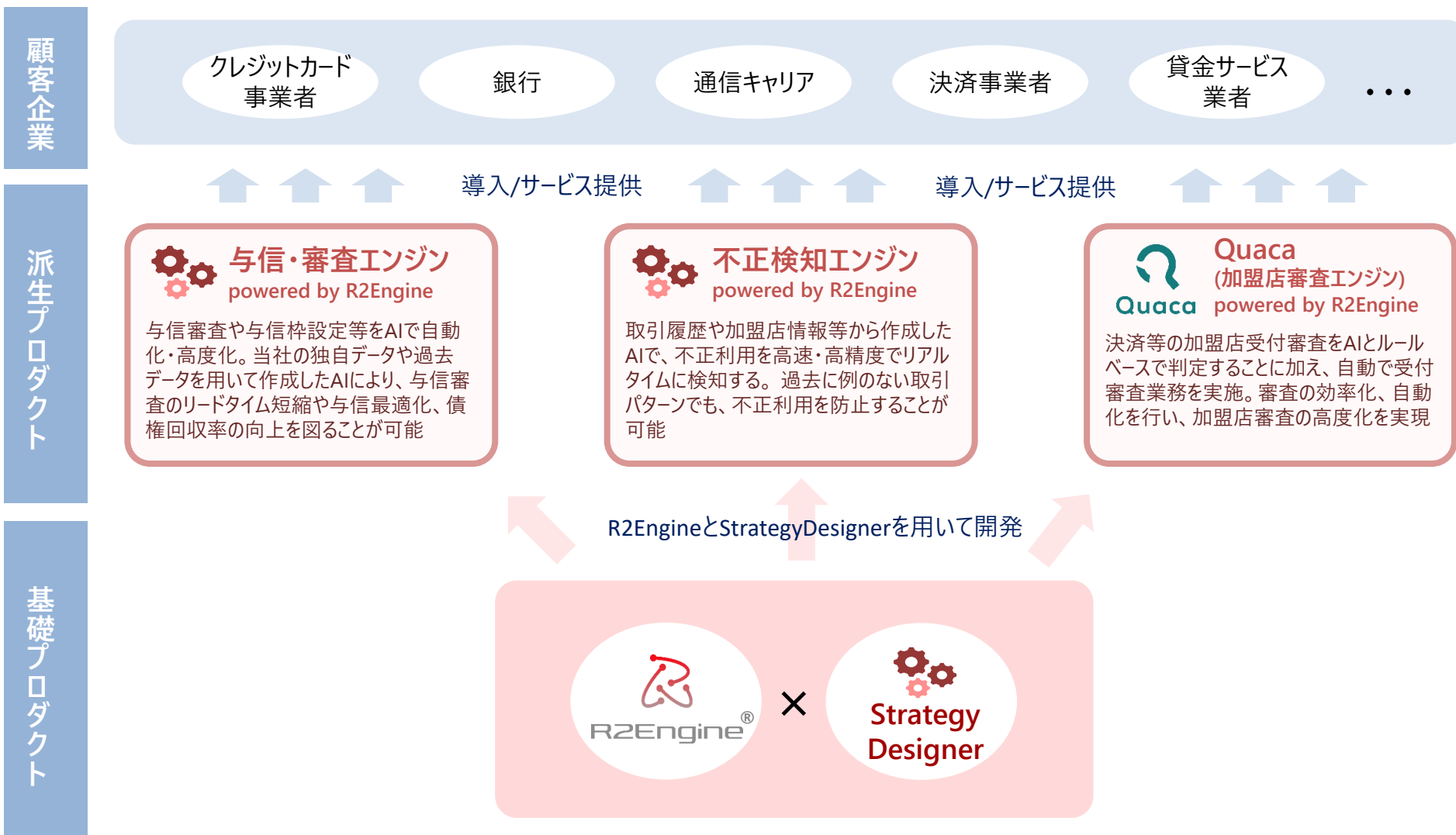
💡 AI導入の効果

- ✓ 現場まかせになっていた作業品質の標準化を実現
- ✓ 安全・品質管理担当者・現場作業員の大幅な工数削減。工事品質の向上

個別カスタムが発生し易い「カスタムメイド型AIパッケージ」からカスタム不要な「拡販型AIプロダクト」までをバランスよく展開

	カスタムメイド型AIパッケージ			拡販型AIプロダクト		
製品ブランド	 R2Engine®	 StrategyDesigner	 アナリティクスプラットフォーム	 Object Recognition	 SX Score	 SkyFox  SkyFox HR
製品概要	様々なアルゴリズムに対応可能な実践的運用基盤	事業KPIを最大化するように最適な判断を行うAIモデルを構築するエンジン	全データ一元管理および分析ツール対応プラットフォーム	様々なインターフェースに対応した画像/映像解析エンジン	当社の独自モデルを用いたリスクやニーズのスコアリングサービス	データアナリティクスの自動化ソフト (AutoML製品)
製品特性	与信枠、潜在顧客、顔認証等、組み合わせアンサンブルモデルが可能	R2Engineとの連携利用で、より効果を発揮する。高速求解、高精度予測が可能	R2Engine、SkyFoxとの連携可能	高解像度・高FPS映像のリアルタイム解析が可能	スコア作成のデータ加工およびモデル構築・選定技術で特許取得済	アナリティクス課題の機械学習を自動化したSaaS型製品

R2EngineとStrategyDesignerをベースに、特定業務に特化した形で開発した“派生プロダクト”を 様々な企業に導入



1. 事業概要

2. 2026年12月期 2Q決算サマリー

3. 2026年12月期 2Q決算概要

4. 事業の進捗

5. Appendix

2026年12月期 第2四半期業績

- 各事業の堅調な成長と子会社連結により、売上高は899百万円(前期比+37.8%)と順調に増加、営業利益は93百万円(同+7.5%)、人員数は91名(同+22名)となり、**増収増益と人的リソースの拡大を継続**
- アナリティクスコンサルティング売上は365百万円(同+15.3%)、AIプロダクト売上は360百万円(同+7.3%)と、いずれも**過去最高を更新**。ストック売上は197百万円(同-1.4%)と、1Qの一部案件終了影響を受けるも、新規案件の順調な積み上がりは継続

事業進捗

- キャッシュレス決済事業者向けの**JCBと共同での新たな加盟店審査サービス**の提供や、家賃保証領域における**ジェイリースとの業務提携**、技能五輪向け「瞬間イベント検出AI」に関する**エクシオグループとの共同特許の取得**など、協業パートナーとの新規取り組みが進捗
- 生成AI×AIエージェント×予測識別AIの技術を組み合わせ、当社ならではのAX(AI Transformation)を両事業で推進

売上高

過去最高*1

899百万円
(前期比+37.8%)

営業利益

過去最高*1

93百万円
(前期比+7.5%)

人員数

91名
(前期比+22名)

ストック売上

197百万円
(前期比-1.4%)

アナリティクス
コンサルティング売上

過去最高*1

365百万円
(前期比+15.3%)

AIプロダクト売上

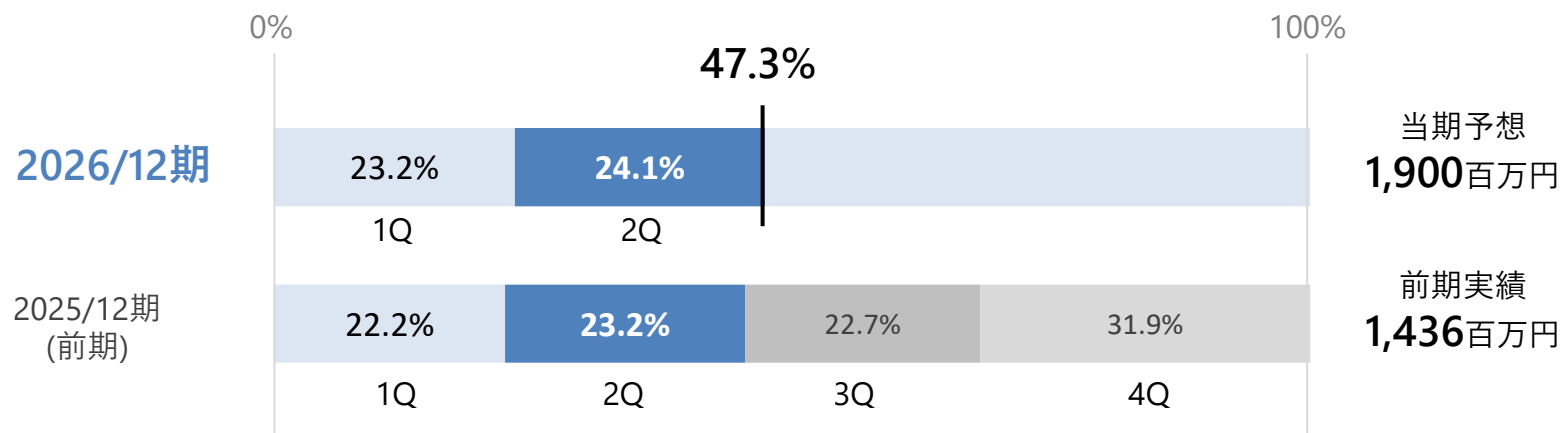
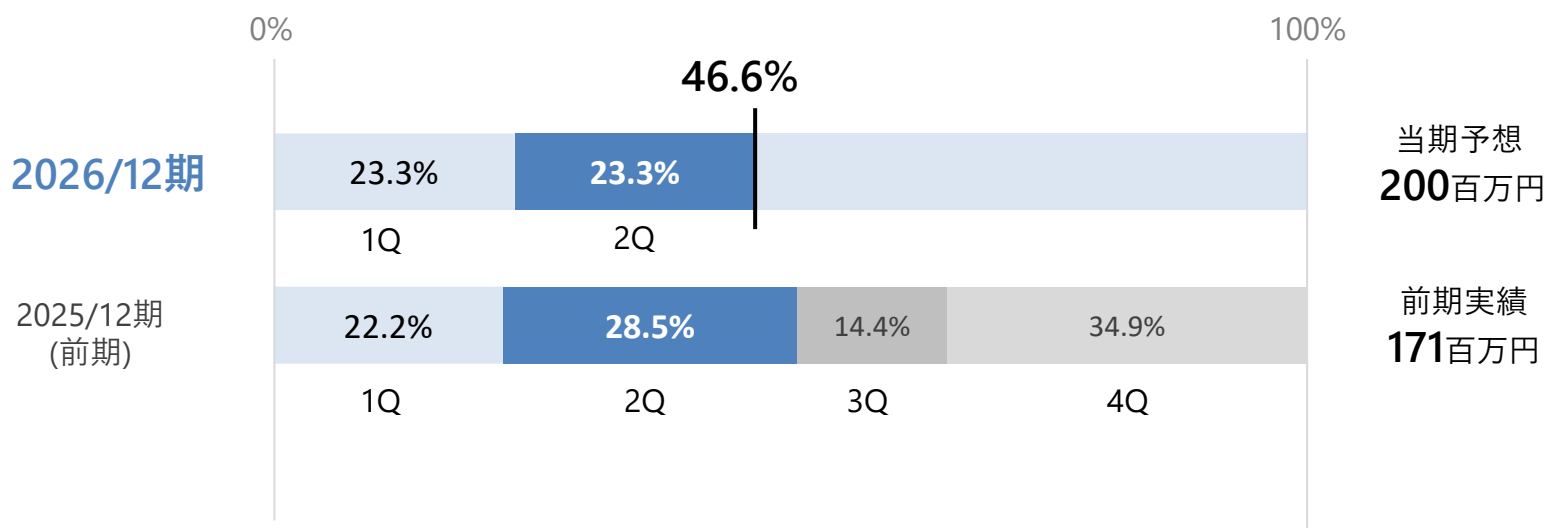
過去最高*1

360百万円
(前期比+7.3%)

デジタル
ソリューション売上

173百万円

売上高は前期を上回る進捗率で推移し、営業利益は先行投資を継続しながらも当期予想に対し
て順調に進捗

売上高
進捗率営業利益
進捗率

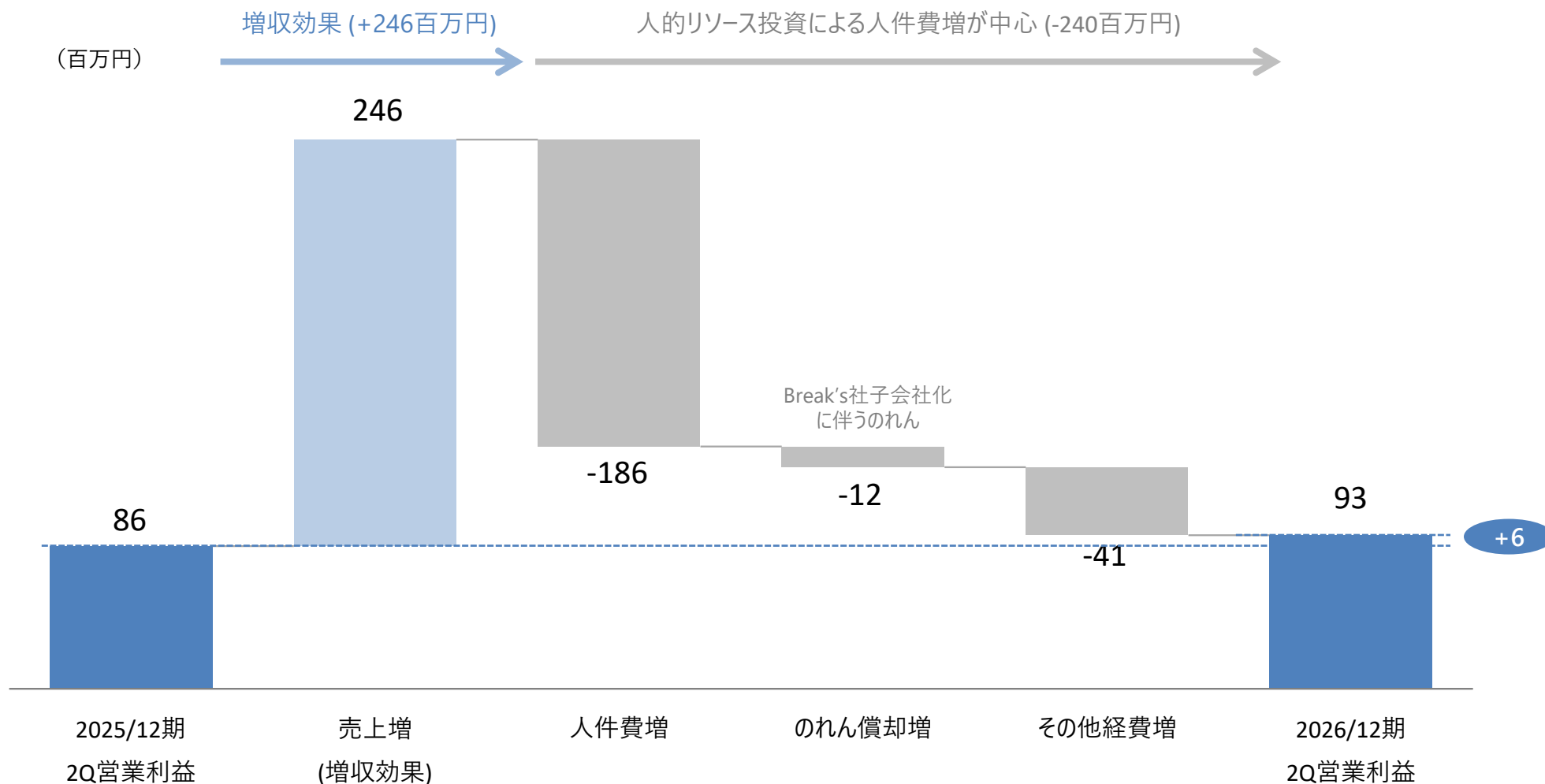
1. 事業概要
2. 2026年12月期 2Q決算サマリー
3. 2026年12月期 2Q決算概要
4. 事業の進捗
5. Appendix

売上高は899百万円(前期比+37.8%)、営業利益は93百万円(同+7.5%)と増収増益

(百万円)	2025/12期 2Q	2026/12期 2Q	前期比	2026/12期 業績予想	進捗率
売上高	652	899	+37.8%	1,900	47.3%
アナリティクスコンサルティング	316	365	+15.3%	-	-
AIプロダクト	335	360	+7.3%	-	-
デジタルソリューション	-	173	-	-	-
売上原価	378	550	+45.7%	-	-
販管費	187	255	+35.9%	-	-
営業利益	86	93	+7.5%	200	46.6%
経常利益	87	93	+6.7%	200	46.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	59	64	+8.0%	140	45.7%
ストック売上	200	197	-1.4%	-	-

* 2025年12月期の4Qより連結決算に移行のため、2025年12月期の2Qは単体数値

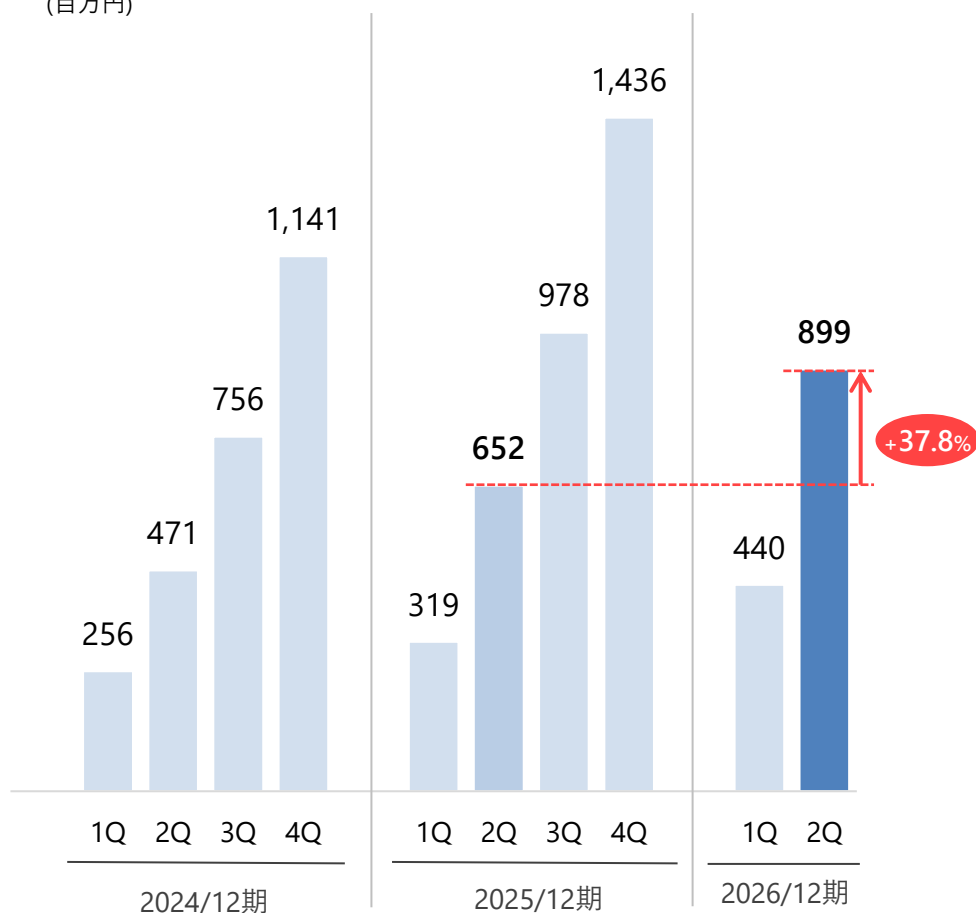
2Q営業利益は、増収効果が人的リソース投資を中心とした費用増を上回り、6百万円の増益で着地



売上高は事業拡大を背景に四半期累計で過去最高を更新。営業利益もコスト増加を吸収し、堅調に推移

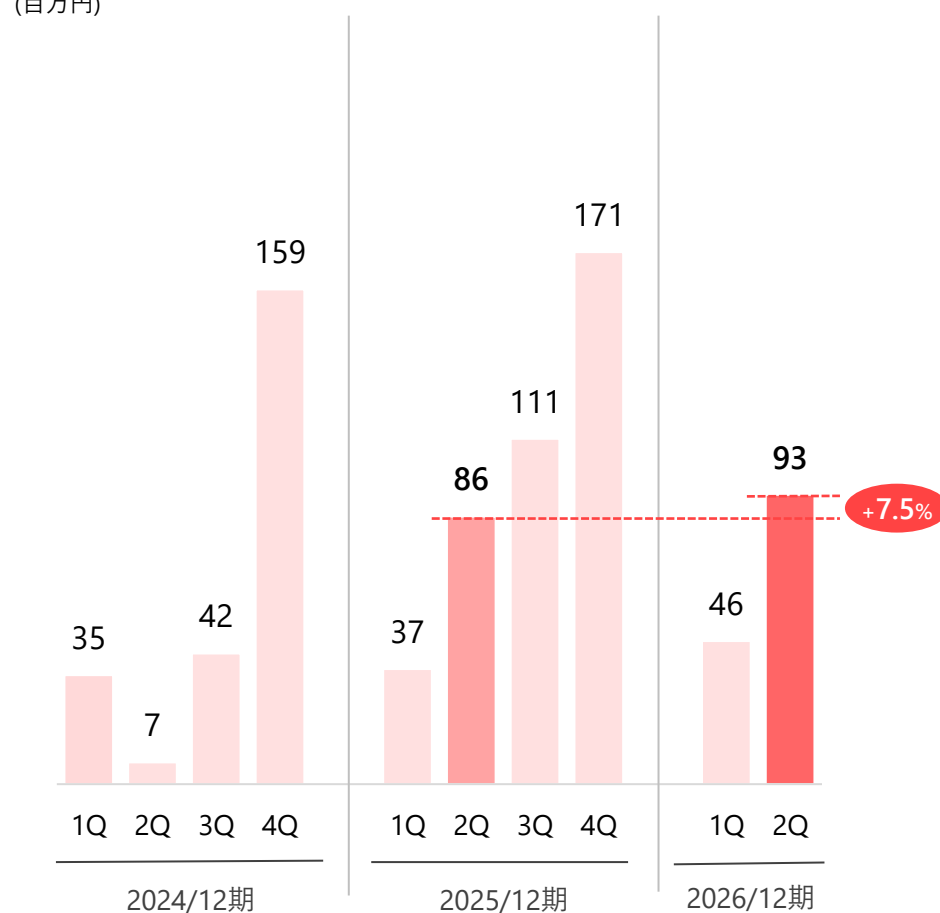
売上高

(百万円)



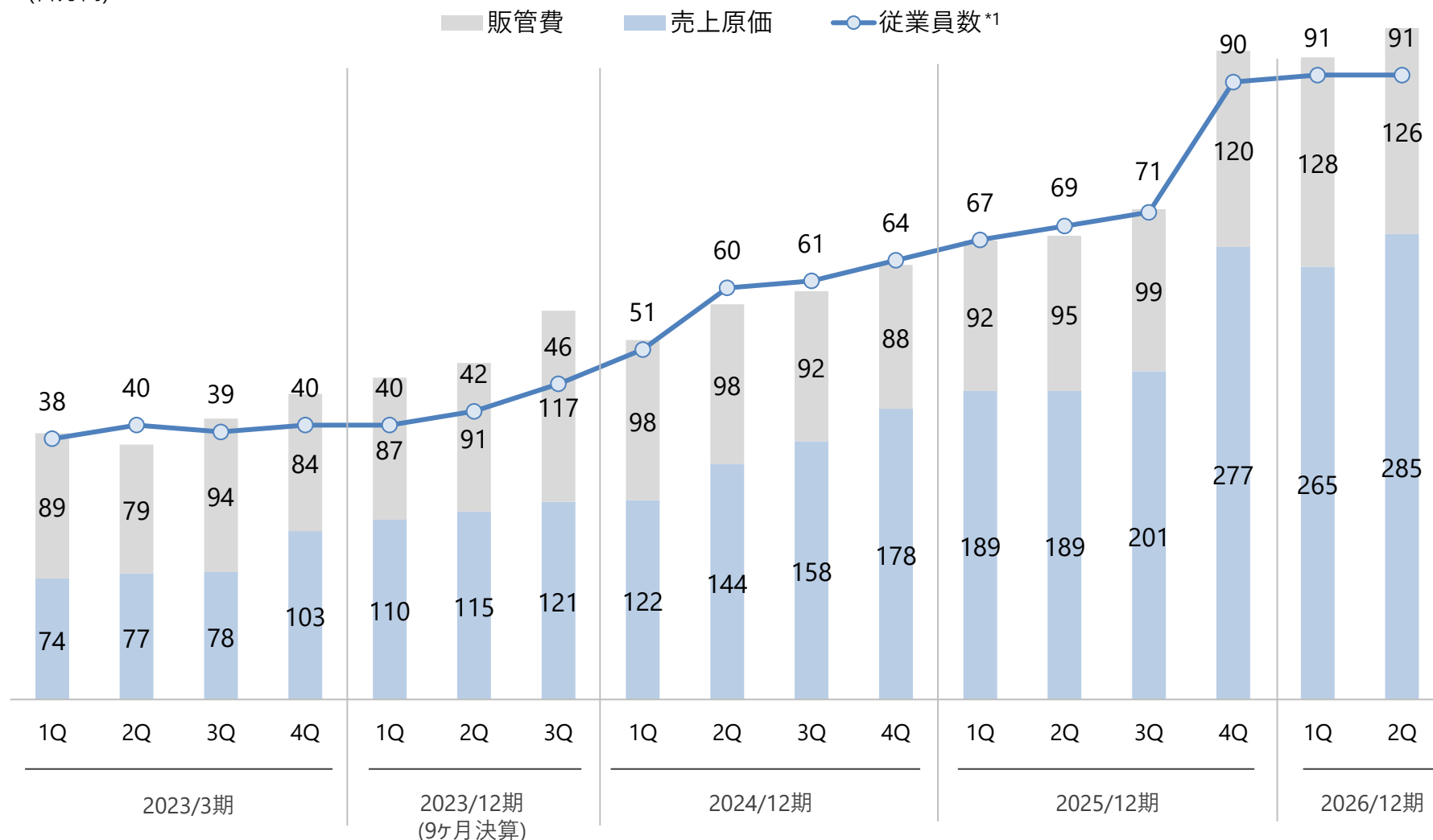
営業利益

(百万円)



事業拡大およびBreak's社の連結影響により、売上原価・販管費ともに増加

(百万円)



*1 各期末時点の人数(出向者含む)

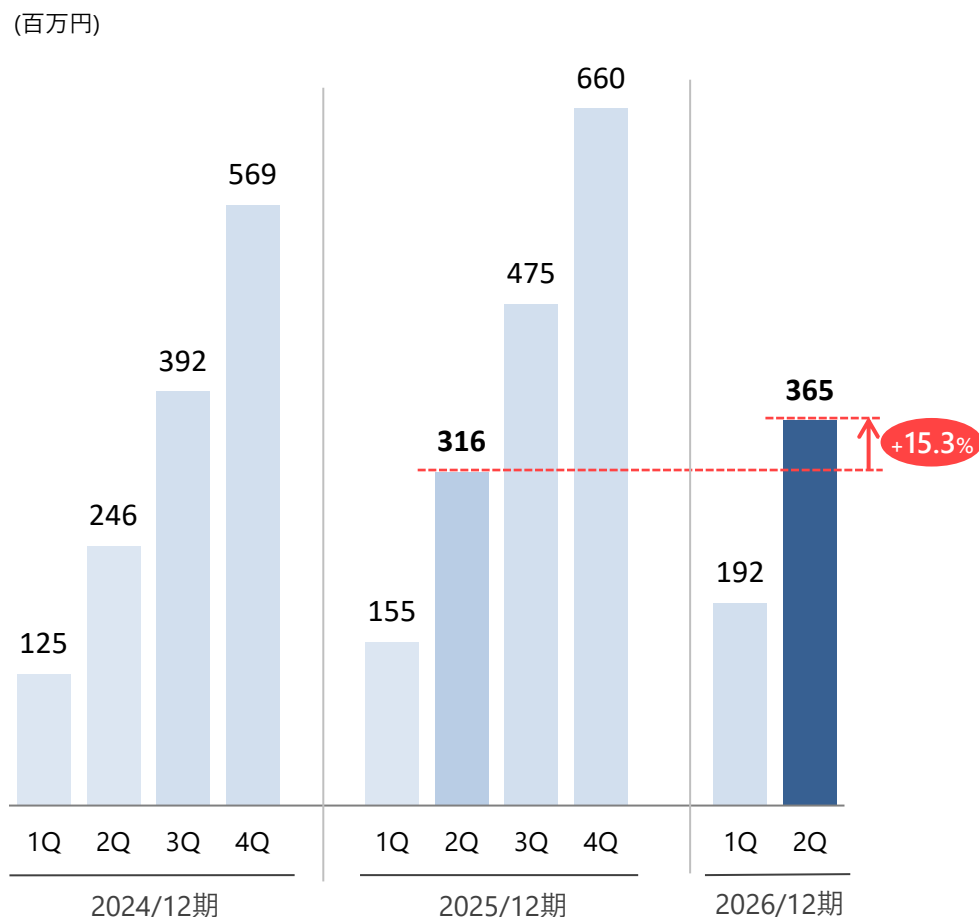
* 2025年12月期の4Qより連結決算に移行のため、2025年12月期の3Q以前は単体数値

1. 事業概要
2. 2026年12月期 2Q決算サマリー
3. 2026年12月期 2Q決算概要
4. 事業の進捗
5. Appendix

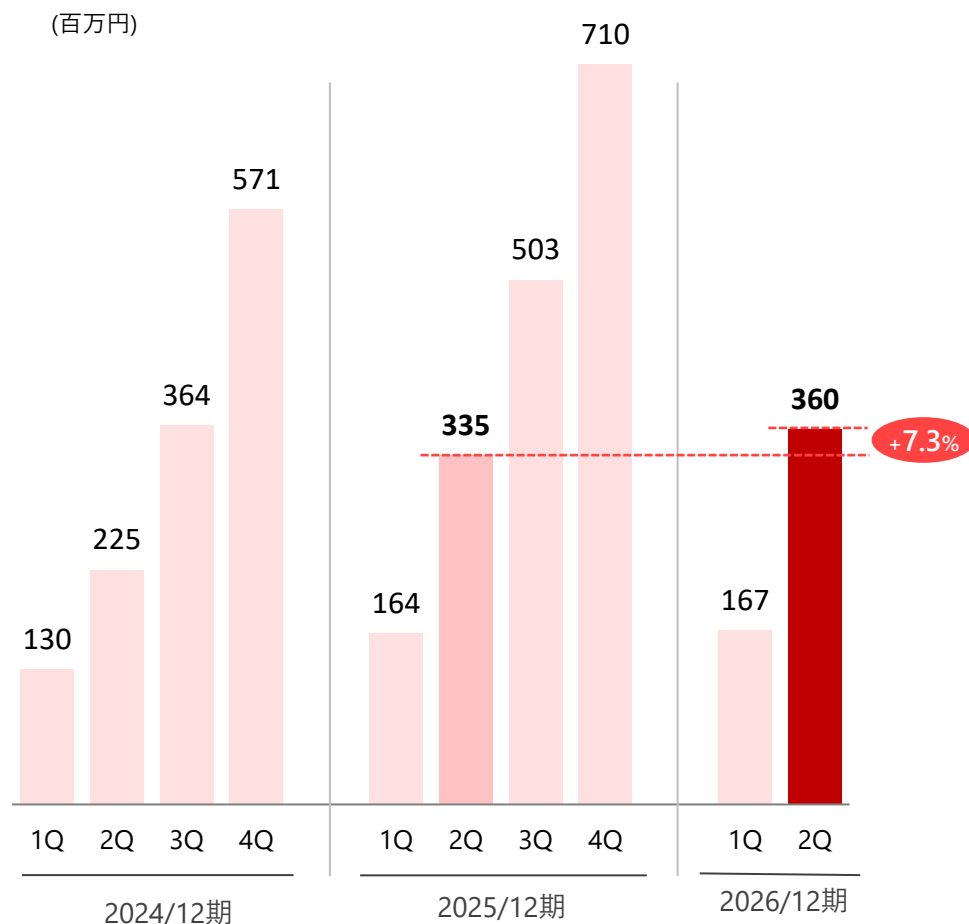
アナリティクスコンサルティング・AIプロダクトともに継続的な取引拡大を背景に堅調に成長

- アナリティクスコンサルティング売上は、継続的な案件需要により、前期比で+15.3%の成長
- AIプロダクト売上は、既存顧客からの導入拡大を中心に伸長し、前期比で+7.3%の成長

アナリティクスコンサルティング売上

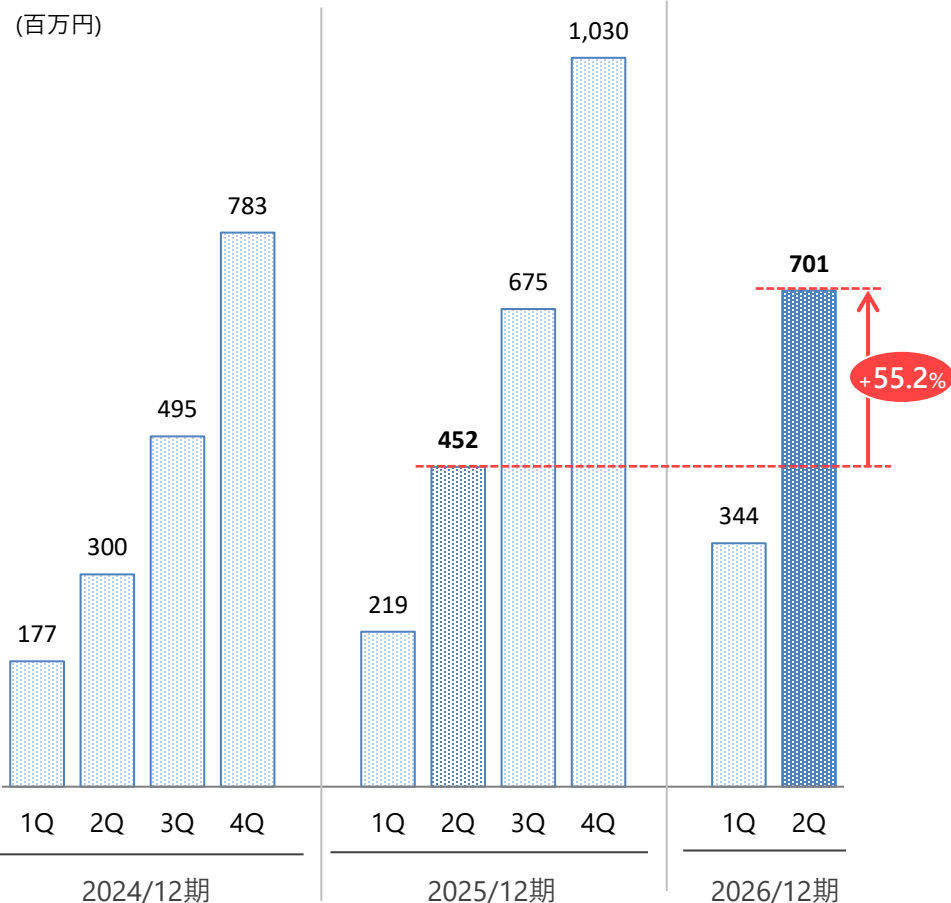


AIプロダクト売上

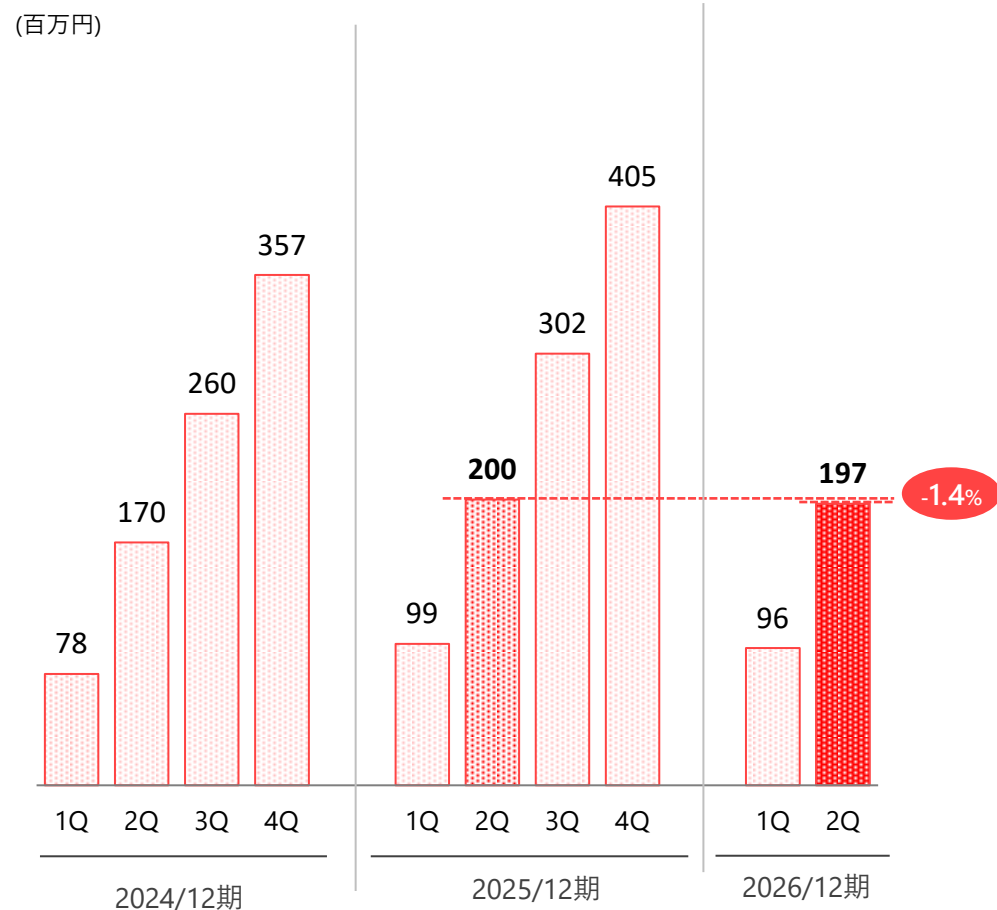


フロー売上は案件増とデジタルソリューション事業の寄与により前期比+55.2%と大幅に増加、
ストック売上は1Qの一部案件終了影響を受けるも、新規案件の順調な積み上がりは継続

フロー売上



ストック売上



各注力方針に沿って、中長期に向けた事業拡大のための技術特許化や業務提携、新サービス提供、採用強化などの施策が進捗

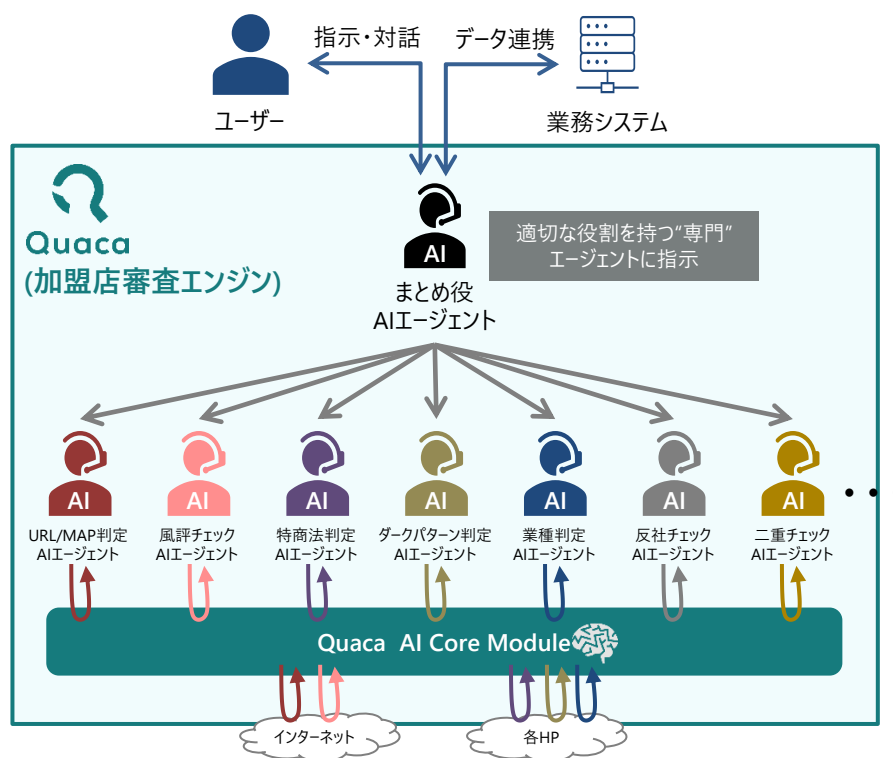
	注力方針	2Q進捗および足元の状況
アナリティクス コンサルティング	- 成功プロジェクトの技術・ノウハウの横展開によるコンサルティングサービスの提供領域の拡大 - 生成AIの活用等、新技術による新規取組事例の蓄積	- 大手企業へのデータ利活用支援や戦略最適化支援が進捗。さらにAX導入支援案件も増加 - エクシオグループと、技能五輪向け「瞬間イベント検出AI」に関する共同特許を取得
AIプロダクト	- 協業パートナーと共に「与信・審査エンジン」や「加盟店審査エンジン」等の業務特化型パッケージの新規導入先を拡大 「R2Engine」を中心としたカスタムメイド型AIパッケージ製品の機能拡充、製品力強化	- ジェイリースと、生成AI・AIエージェント・予測識別AI等の技術を活用し、製品・サービスの強化・新規開発を目的とした業務提携を開始 - JCBとキャッシュレス決済事業者向けに、当社エンジンを活用した加盟店審査サービスを提供開始
デジタル ソリューション	- 業務システム・AI関連システムの受託開発における多様な開発領域での実績拡大 - 東京＋地方拠点を活用した柔軟な開発リソース確保とICT人材の育成力の強化	- データ可視化からシステム開発・運用・保守までの幅広い支援領域での実績を蓄積 - 当社への開発リソース支援によるICT人材の育成を強化
コーポレート	- データサイエンス/エンジニア人材の採用強化とリテンション強化に向けた施策の実施 - 当社およびAIプロダクトの認知度向上のための広報・PR強化	- 新規のデータサイエンス/エンジニア人材向け採用媒体・エージェントによる採用応募者数の増加 - 従業員へのカウンセリング、従業員満足度向上や譲渡制限株式の付与によるリテンション施策の実施

生成AI×予測識別AIのエージェント化により、AIプロダクト・アナリティクスコンサルティングの両事業を高度化

AIプロダクトの高度化

当社AIコア×エージェントでプロダクト価値・適用範囲を拡大：
「加盟店審査エンジン(Quaca)」や「与信審査エンジン」等にAIエージェントを組み込むことで、一連業務の大半をAIが実施。人間はチェック・判断作業のみに集中

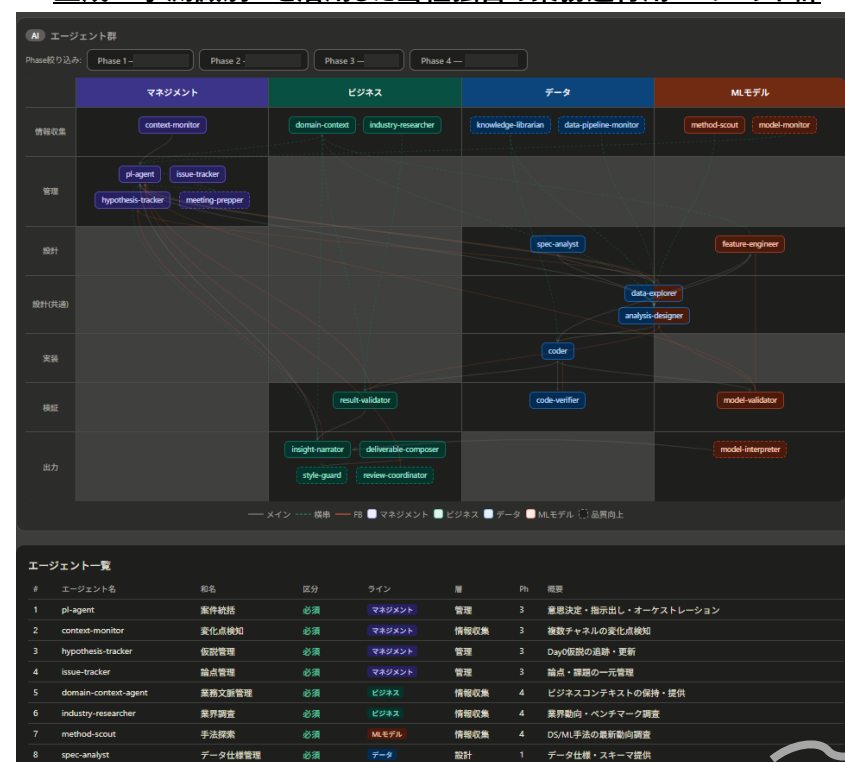
エージェントを搭載した当社製品 (Quaca(加盟店審査エンジン)の例)



アナリティクスコンサルティングの高度化

自社AXの実践知を活かし、顧客企業のAXを支援：
当社のデータサイエンティスト・コンサルタントが数十体の独自AIエージェントとの協働によりAXを実践。実践やR&Dで蓄積した知見・ノウハウをフル活用し、顧客企業のAXも支援

生成 & 予測識別AIを活用した当社独自の業務遂行用エージェント群



JCBの審査ノウハウと当社AIを組み合わせ、キャッシュレス決済事業者の加盟店審査業務の負担を軽減するサービスを提供開始

背景と取組概要



背景

- クレジットカードや電子マネー、コード決済などのキャッシュレス決済の普及に伴い、新規加盟店数は年々増加
- 一方で、加盟店審査業務において、体制構築や運用、新たな法令対応への負担増が課題

取組概要

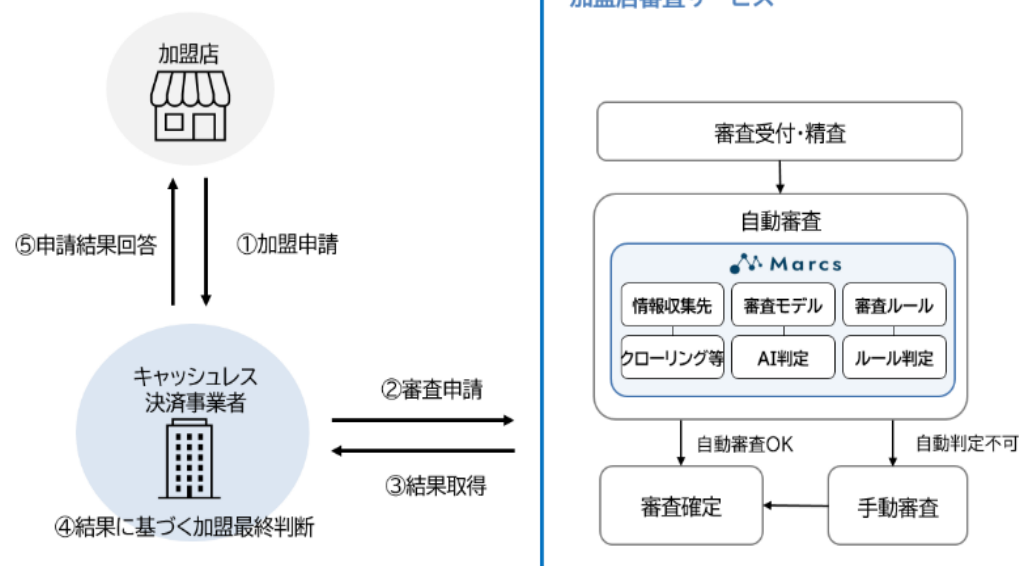
- 上記課題に対して、当社のAI・データ分析技術と、JCBが長年にわたり培ってきた審査ノウハウを融合させた加盟店審査システム「Marcs」を活用し、キャッシュレス決済事業者の加盟店審査業務の負担を軽減するサービスを提供開始

サービス提供先

- 日本国内クレジットカード・コード決済・電子マネー等の加盟店管理会社や決済代行会社など、キャッシュレス決済の加盟店募集を行う事業者幅広く提供予定

加盟店審査サービスのイメージ

- JCBが長年培ってきた審査観点を反映した安全・安心な審査レベルに加え、キャッシュレス決済事業者の要望に応じた審査ロジックのカスタマイズを行うことで、お客様に応じた高品質な審査を実現
- 高度なURLクロール技術とAI解析により、加盟店のウェブ情報を自動収集・解析することで、審査時間を短縮
- 汎用機能をパッケージとして提供することで、自社開発するよりも安価にサービスを提供可能



生成AI・AIエージェント・予測識別AI等の様々な技術を活用し、AIを前提とした抜本的な業務改革(AX)および製品・サービスの強化・新規開発を目指し、業務提携契約を締結



- 機械学習を核とした先進的なAI技術の研究開発を行い、様々な業種・分野に対してAI活用支援を行っているセカンドサイトアナリティカと、家賃債務保証業を中核事業として持続的な成長を目指すジェイリースが、AIを活用した抜本的な業務改革および製品・サービスの強化・新規開発を通じ、両社の企業価値向上を目的として、業務提携契約を締結

背景と目的

- AIが日々急速に進化し、ビジネスの仕組み等を劇的に変革し得る段階に至っている今、両社は中長期的な企業価値向上を目指し、**AIを前提とした業務プロセス・組織体系の抜本的な再構築**を図る

取組

- 生成AI・AIエージェント・予測識別AI等の様々なAI技術を活用した製品・サービスの強化および新規開発に向けた企画・研究・設計・開発を、両社が協力し、以下の内容を実施
 - ① AIを活用した業務プロセスの可視化、最適化および品質向上
 - ② AIを活用した既存ビジネスの拡大および新規ビジネスの開発・展開
 - ③ 共同事業、共同技術の企画・開発

エクシオグループと共同で技能五輪向け「瞬間イベント検出AI」に関する特許を取得

概要

背景

- 技能五輪における情報ネットワーク施工競技では、光ファイバやLANコネクタの加工・接続など、複数の工程に分かれた高度な技能が必要
- 一方で、エクシオグループでは出場選手の強化訓練において、指導員不足により全選手への対応が困難なこと、工程ごとの詳細な分析ができないこと、ストップウォッチの計測精度に限界があることなどの課題が存在

取組概要

- 上記の課題を解決するため、両社はAIによる自動計測技術の開発に取り組み、当技術の特許を共同で取得
- 人手では困難だった高精度な工程分析を実現するとともに、指導員の負担を大幅に軽減

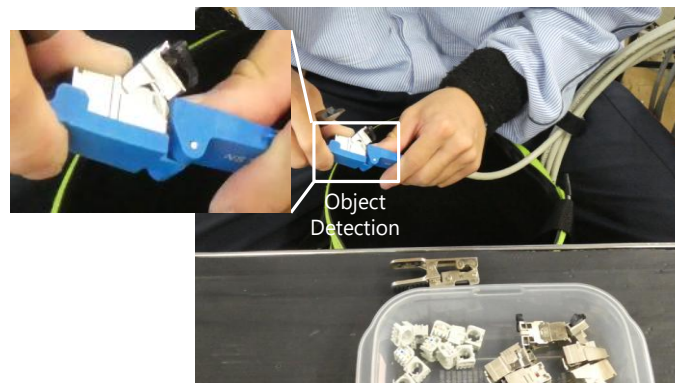
瞬間イベント検出AIのイメージ

瞬間イベント検出AI

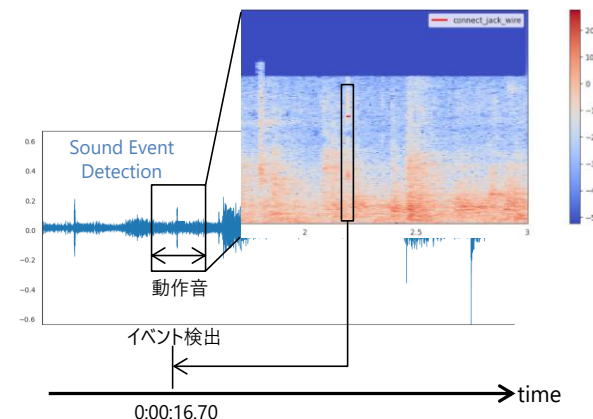
映像のフレーム毎判定

×

映像内の音判定 (イベント検出)



数cmほどの小さな部品の動作を認識し判定



0.01秒単位で一瞬のイベントを高精細に検出

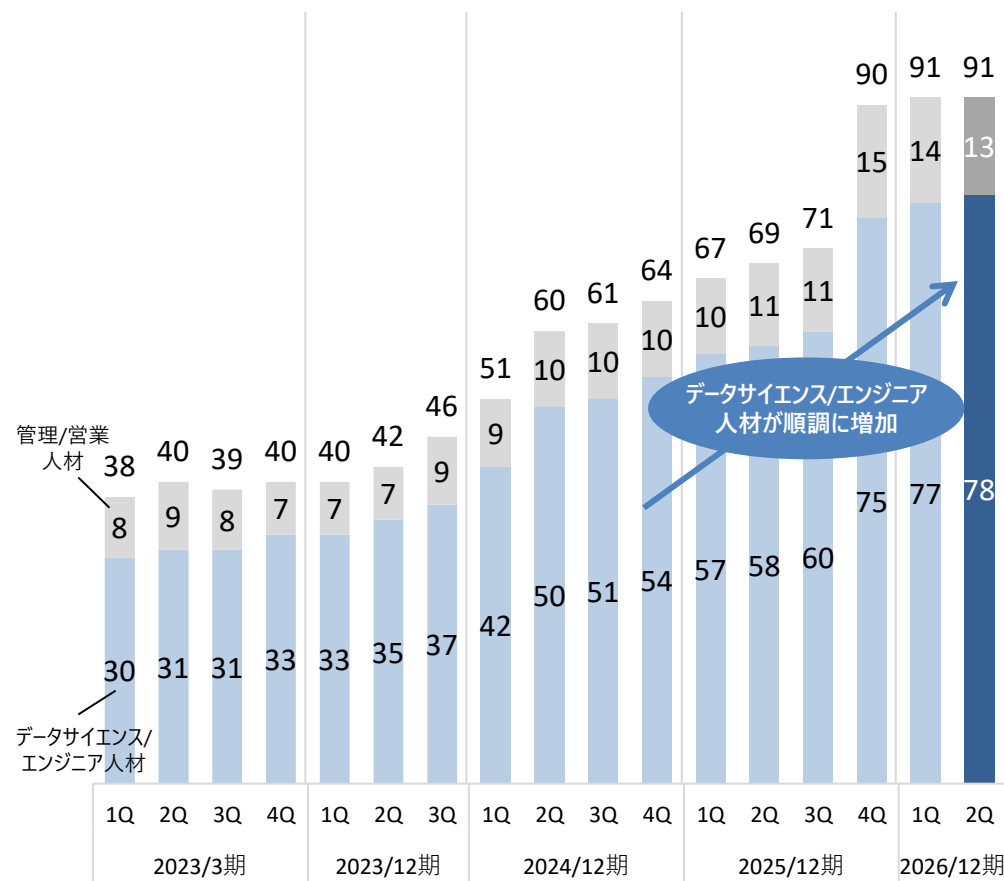
トップ競技者の0.01秒単位の一瞬の動作を高精細に自動識別しタイムを計測

両事業のサービス展開は着実に拡大している

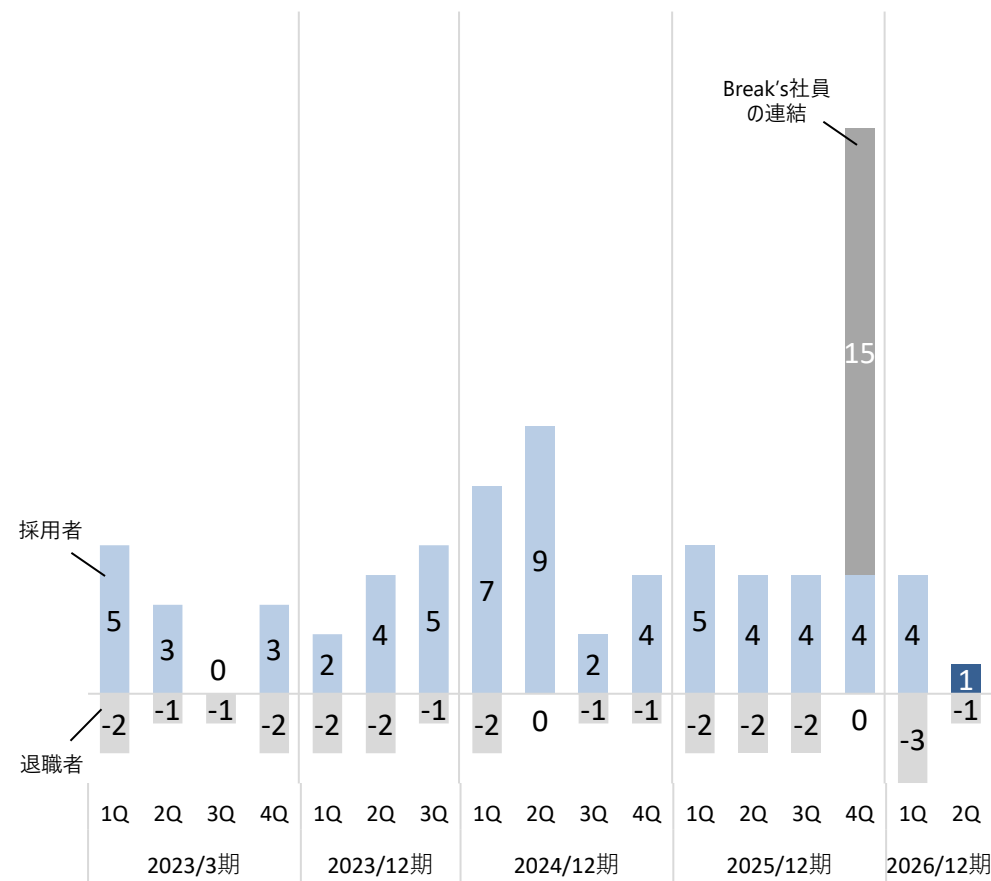
2016年11月	新生銀行、口座の入出金履歴や職歴などを元にAIを活用して、お客さまのニーズに合った最適な商品を提案	2024年2月	IDOM CaaS Technology、当社とクルマの未来残価を高精度で自動予測するAIを共同開発
2018年4月	静岡銀行がSXスコアを活用したAI融資判断の実証実験を開始	2024年5月	エクシオグループおよび大和電設工業とヘルスケア分野におけるAI献立サービスを共同開発
2019年11月	肥後銀行の個人ローン商品に対してAI技術を活用した購買予測モデルを提供	2024年5月	SBペイメントサービス、当社AI技術を活用した新たな加盟店審査システムを導入
2020年3月	東急ストアにAIを活用した店舗来店予測モデルを導入	2024年7月	エクシオグループへ技能五輪に向けた瞬間イベント検出AIを開発
2020年5月	イーブックイニシアティブジャパン、電子書籍販売サイトebookjapanに対して、AI技術を活用したマンガ自動タグ付けモデルを導入	2024年10月	大阪ガスマーケティングの現場作業をAI画像解析システムで支援。エクシオ・デジタルソリューションズと共同開発
2020年7月	三井住友海上、個人向けローン商品に対して、AI技術を活用した審査モデルを提供	2024年10月	auフィナンシャルサービス、AIを活用した加盟店審査システムの運用を開始
2020年11月	SBペイメントサービスが提供するオンライン決済サービスに対して、AI不正検知エンジンを提供	2024年11月	レジェンダ・コーポレーション、当社と協業で採用活動におけるAIアセスメントツールをリリース
2021年1月	協和エクシオ、ネクストジェンと連携。ローカル5Gプラットフォーム構築ソリューションを提供	2025年1月	NTTドコモ、dカード与信審査にR2Engineを導入
2021年2月	ファミリーマート・ファミマデジタルワンが提供する「FamiPay翌月払い」と「FamiPayローン」のAI与信・審査領域で協業を開始	2025年8月	ワオ・コーポレーション、当社とAI学習システム「AxisPLUS」に関する共同出願の特許を取得
2021年4月	NTTドコモと実証実験。独自技術を活用した高解像度映像解析AIエンジンを提供	2025年9月	総務省の「地域社会DX推進パッケージ事業」におけるWi-Fi HaLow×AIを用いた農産物検品の「省人化」の実証事業に採択
2021年10月	フィデアHDの荘内銀行及び北都銀行が展開する一部個人ローン商品に対して、AI技術を活用した購買予測モデルを提供	2025年10月	エクシオグループ、大和電設工業と共同で、医療・介護現場向け「摂食量自動判定AI」の特許を取得
2022年4月	アプラス、当社が提供する「AIを用いたクレジットカード不正検知エンジン」を導入	2025年11月	大阪ガスマーケティングへの「施工品質チェックのAIモデル」が、日本ガス協会「2025年度 技術賞」を受賞
2022年5月	三井住友海上とAIを活用した個人向け自動車ローン・リース分野における新たな審査モデルを構築	2026年1月	TISと共同で、カード決済の不正利用を防ぐ「AI不正検知サービス」を提供開始
2023年1月	ジェイリース、家賃保証審査に「R2Engine」導入 ～新たな与信審査モデルの開発を開始～	2026年4月	JCBとキャッシュレス決済事業者向けに、「Marcs」を活用した加盟店審査サービスを提供開始
2023年6月	JCB、当社のAI技術とR2Engineを用いた加盟店審査エンジンを導入	2026年5月	ジェイリースと業務提携契約を締結
2023年6月	ふくおかフィナンシャルグループと共に、銀行店舗形態の最適化に向けたデータ解析を実施	2026年8月	エクシオグループと共同で技能五輪向け「瞬間イベント検出AI」に関する特許を取得

データサイエンス/エンジニア人材の増加が持続し、2Q従業員は91名で着地。採用数は2Qに一時的に減少するも3Qに向けて増加予定

従業員数の推移



推移の内訳

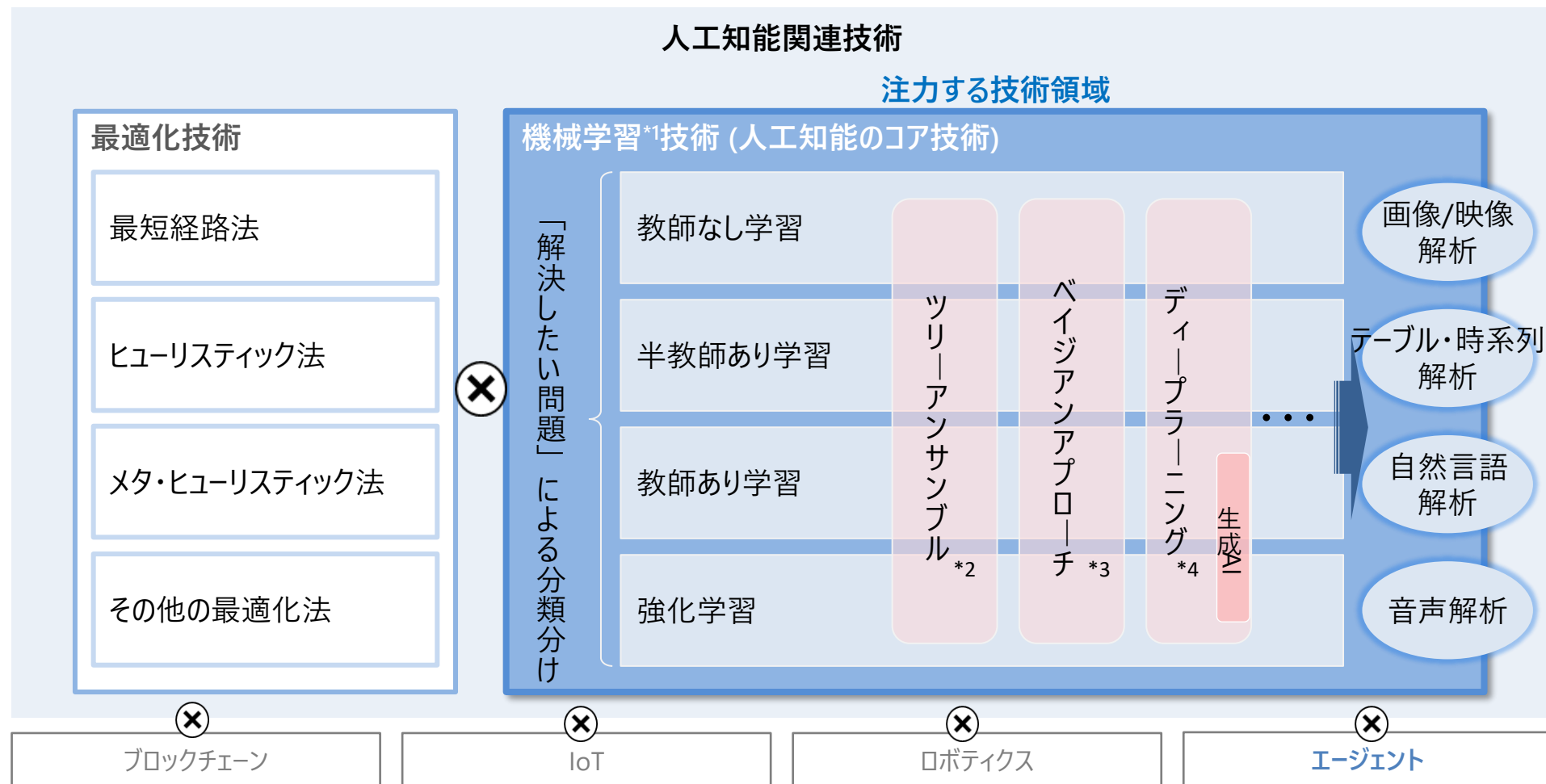


* 従業員数は各期末時点の人数

** 2025年12月期の4Qより連結決算に移行のため、2025年12月期の3Q以前は単体数値

1. 事業概要
2. 2026年12月期 2Q決算サマリー
3. 2026年12月期 2Q決算概要
4. 事業の進捗
5. Appendix

AI技術においては、中核を担う機械学習領域に注力。ディープラーニングを含むコア技術をベースに、各種のデータアナリティクスを実行



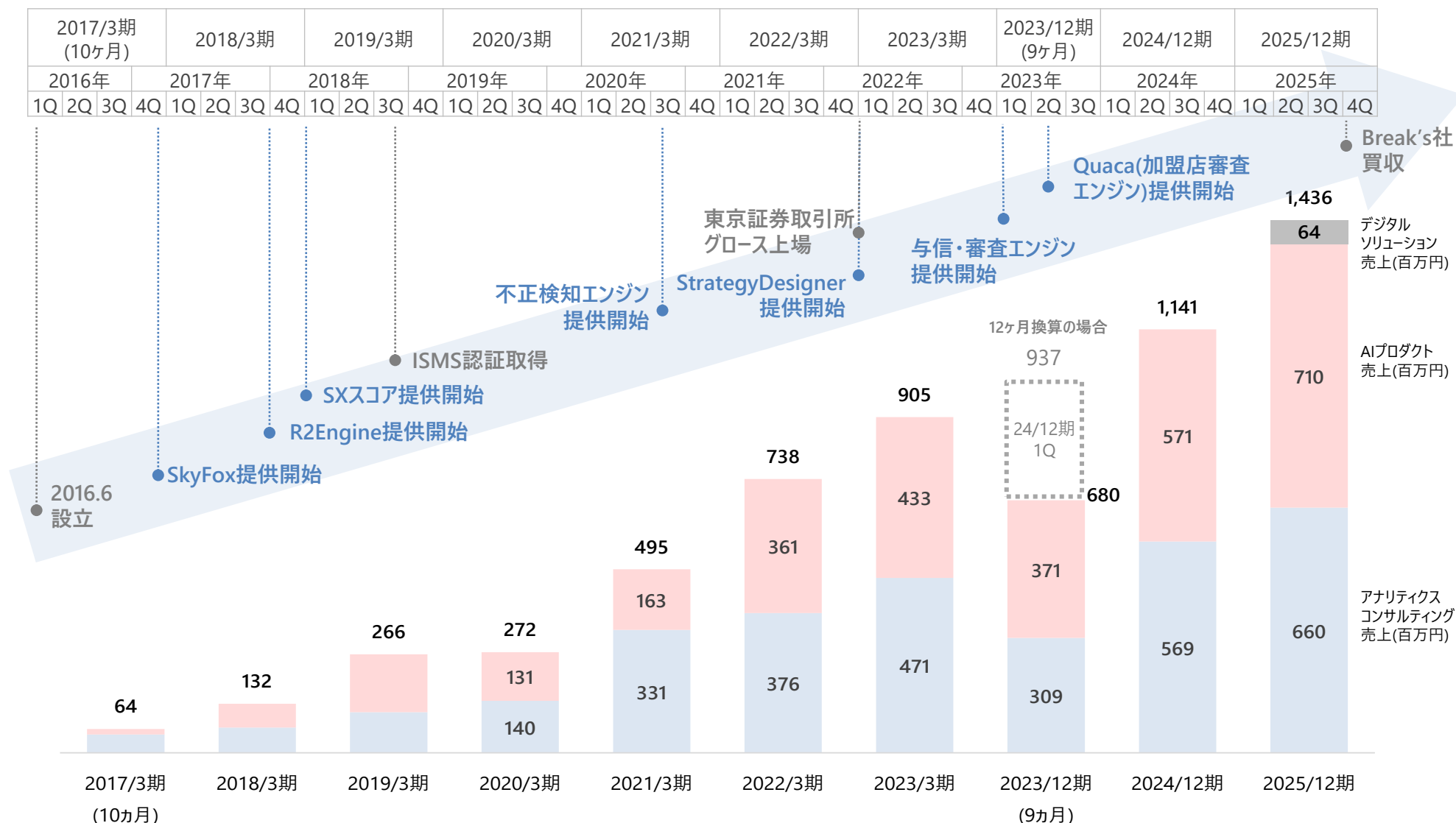
*1 機械学習：経験からの学習により法則を見つけ出し、法則性を自動化(再現)するコンピュータールゴリズム

*2 ツリーアンサンブル：複数の木構造の弱学習器(性能の低い機械学習モデル)を組み合わせて、高性能な機械学習モデルを構築する手法

*3 ベイジアンアプローチ：ある事象に関連する条件についての事前の知識に基づいて、その事象の確率を予測する手法

*4 ディープラーニング：人間の脳が持つ一部の機能を模倣して機械に学習させる手法

会社設立は2016年。アナリティクスコンサルティングを提供しつつ、順次AIプロダクトを展開し、2022年には東京証券取引所グロス市場に上場

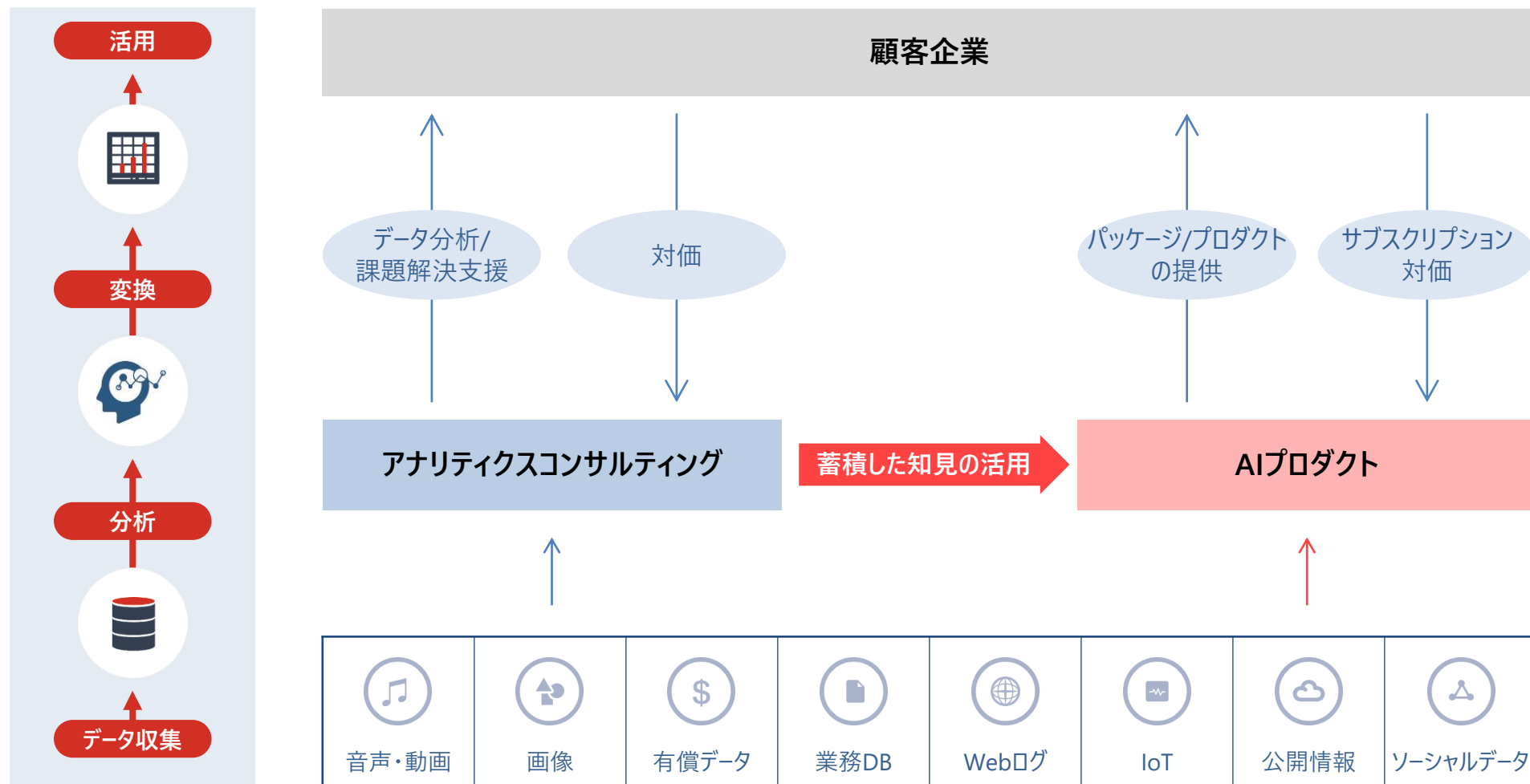


* 2025年12月期より連結決算に移行のため、2024年12月期以前は単体数値

©2026 SecondXight Analytica, Inc. All Rights Reserved. 30

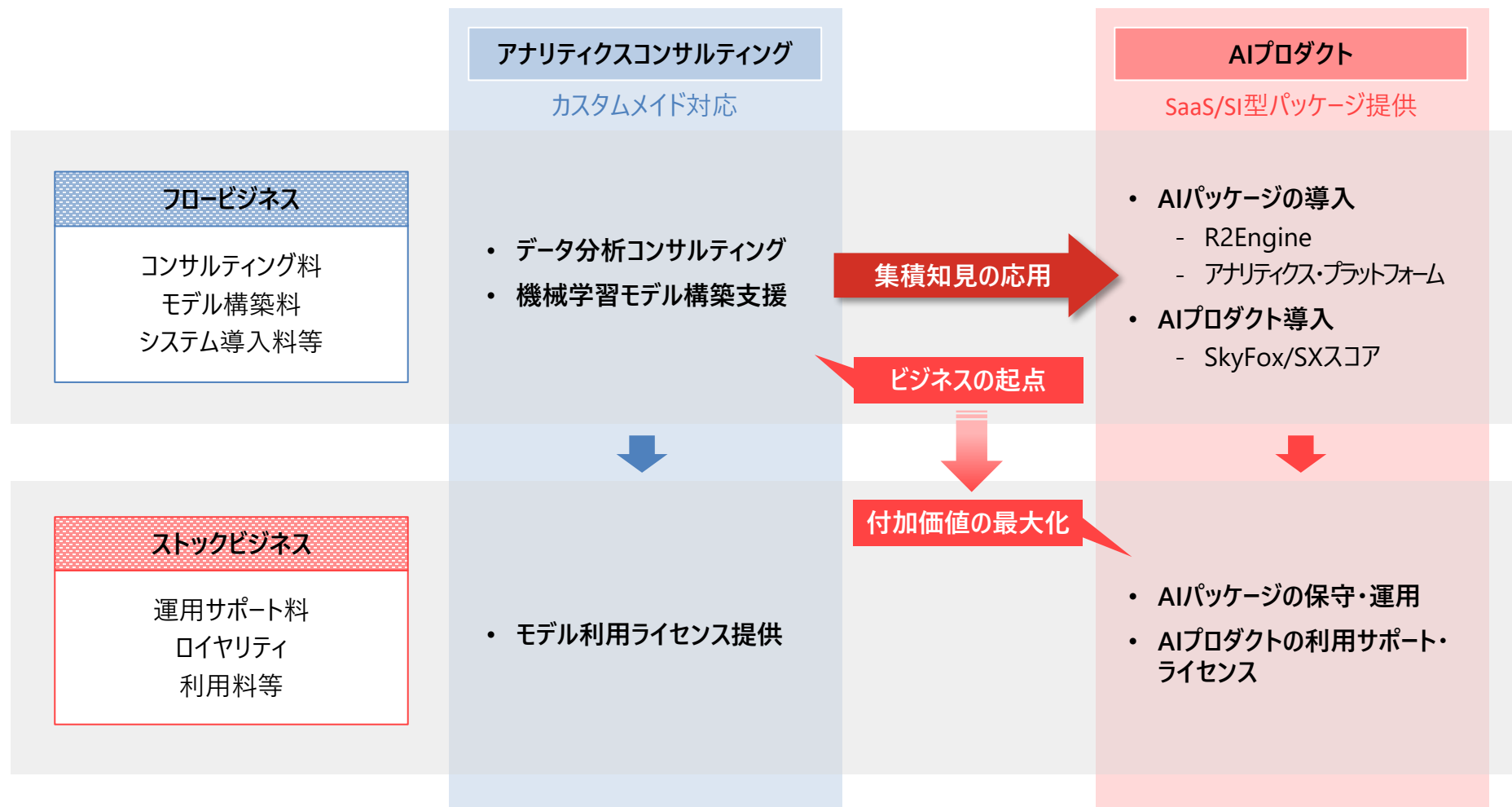
アナリティクスコンサルティングで得た知見を活かしてAIプロダクトを開発し、顧客企業に提供

- 機械学習活用のアナリティクスコンサルティングは、顧客企業毎に課題解決支援を提供
- AIプロダクトでは、汎用版の課題解決支援プロダクトをサブスクリプション型で提供



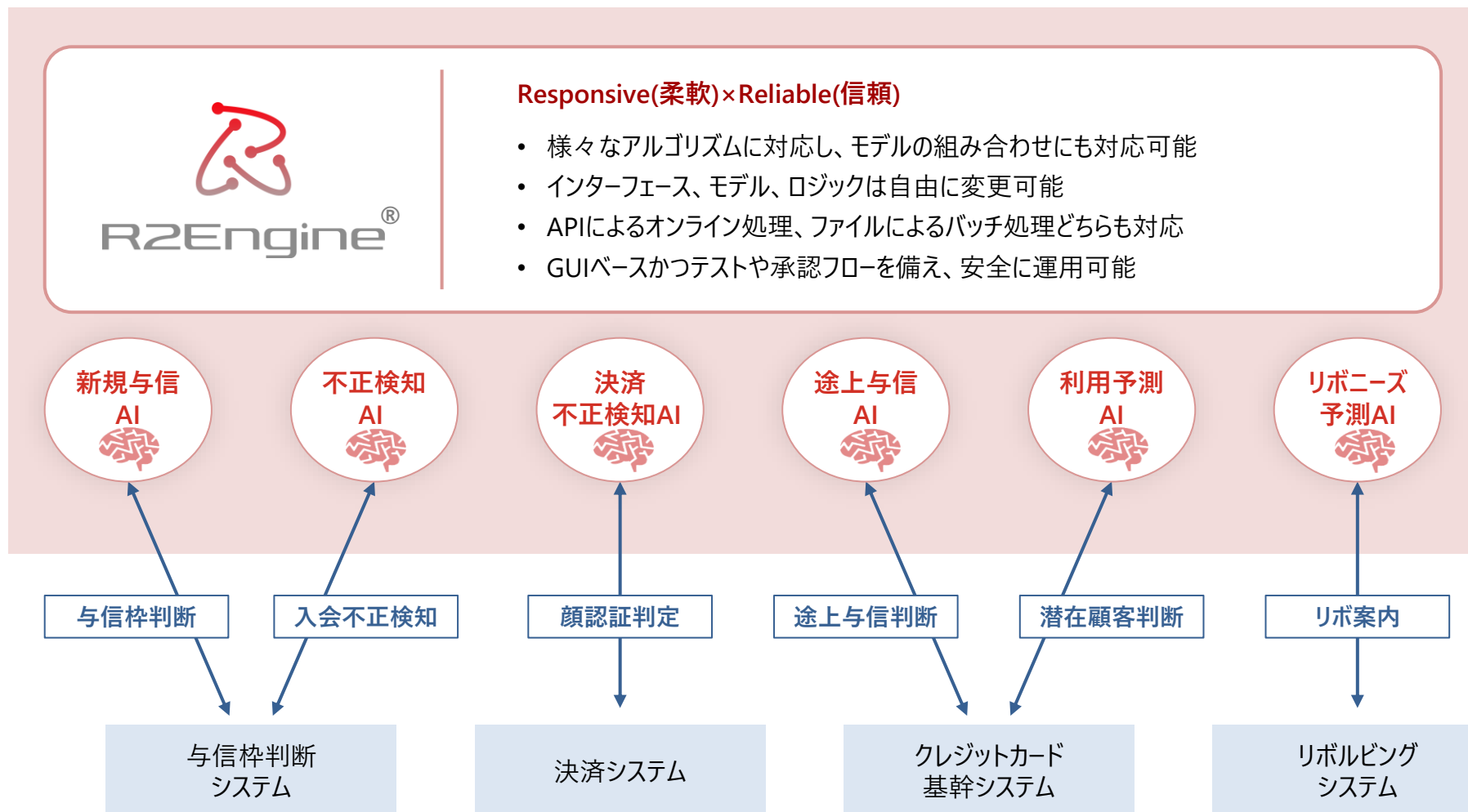
データ分析コンサルティング等のアナリティクスコンサルティングがビジネスの起点

- ・ フロー売上を主軸とした顧客個別対応型事業で知見を集積、AIプロダクトのSaaS/SI型パッケージ製品開発に応用
- ・ 各事業内においても、フロー型ビジネスをストック型ビジネスへとシフトさせる構造を構築



AIプロダクト主軸のR2Engineは、実運用に必要な機能を兼ね備えたAIモデルの総合実行基盤

- 主要顧客は金融機関が多く、与信判断、決済等の不正検知に活用
- 「R2Engine」を基礎としながら、対象ビジネスに特化し、システム要件の高い領域への展開にも着手



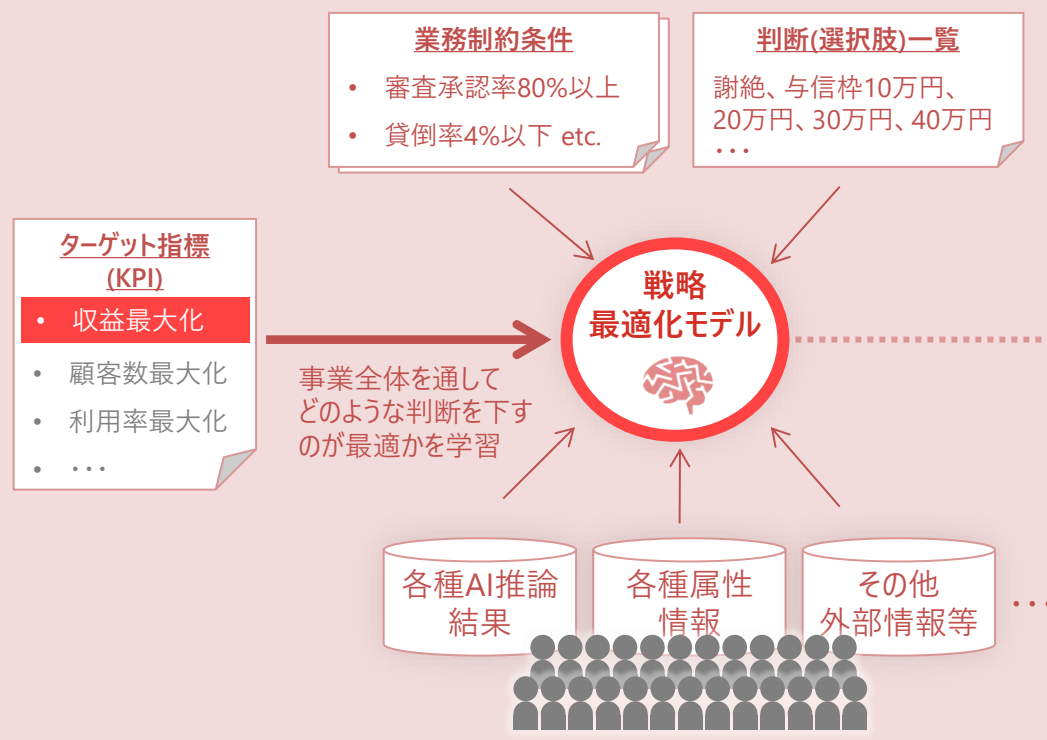
各種AIの推論値・業務上の制約等を加味した上で、事業のKPIを最大化するように最適な判断を行うAIモデル「戦略最適化モデル」を構築するプロダクト

- 金融業界では与信戦略、製造業界では在庫・工場ライン最適化、その他シフト管理最適化等、適用範囲は広い

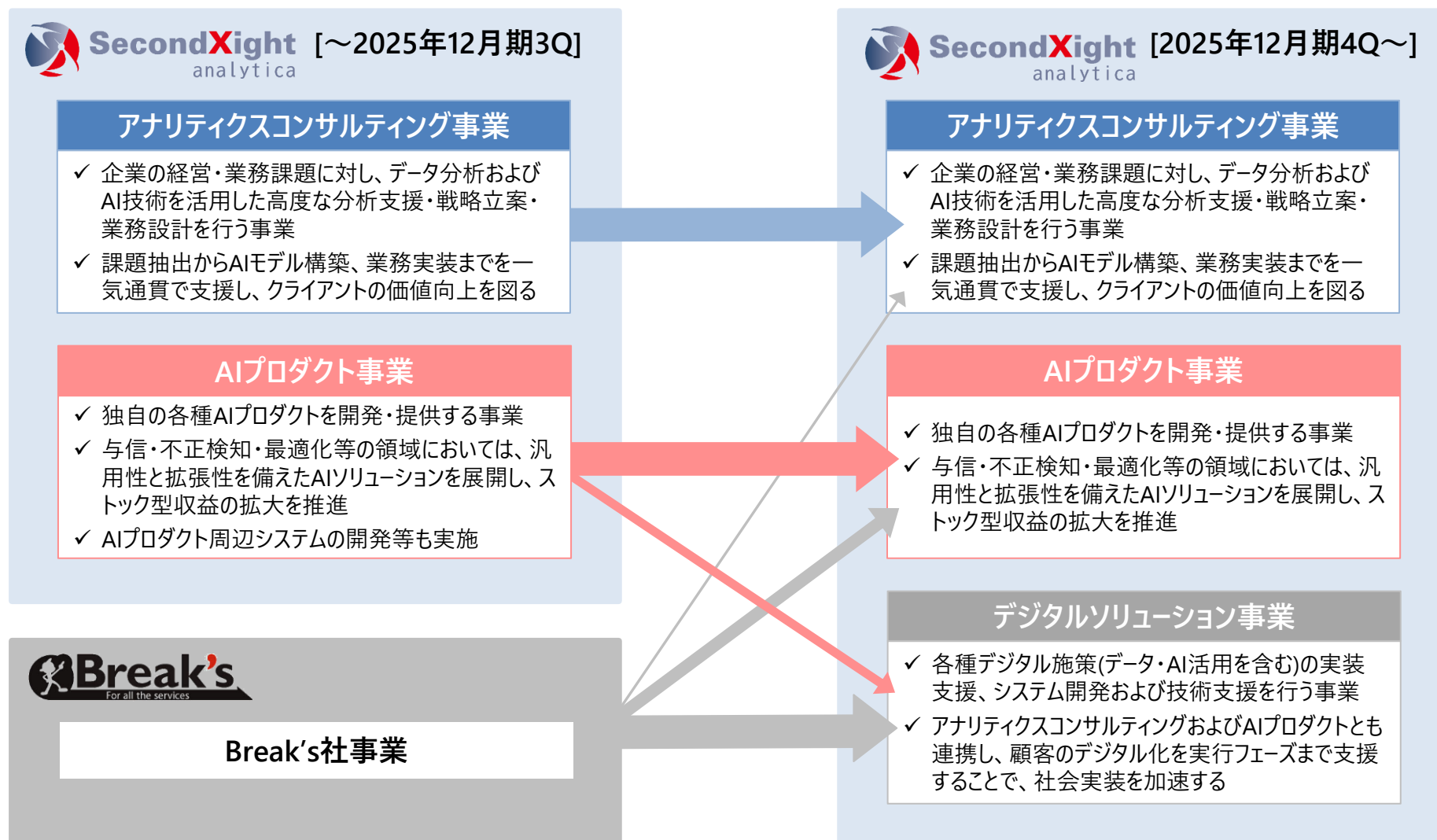


**Strategy
Designer**

- KPIと業務制約を設定することで、最適な選択を行うAIモデルを構築
- 業務制約条件やデータを内部で加工し、最適化処理をより高速に実行
- 各業務制約条件の制約の強さを可視化
- 構築したAIモデルはR2Engineに搭載可能



Break's社の子会社化に伴い連結決算へ移行するとともに事業区分を再編。デジタル施策の実装およびシステム開発・技術支援を担う「デジタルソリューション事業」を新設し、3事業体制へ移行



2026/12期は売上拡大を第一に注力しながら、増収増益トレンドを継続

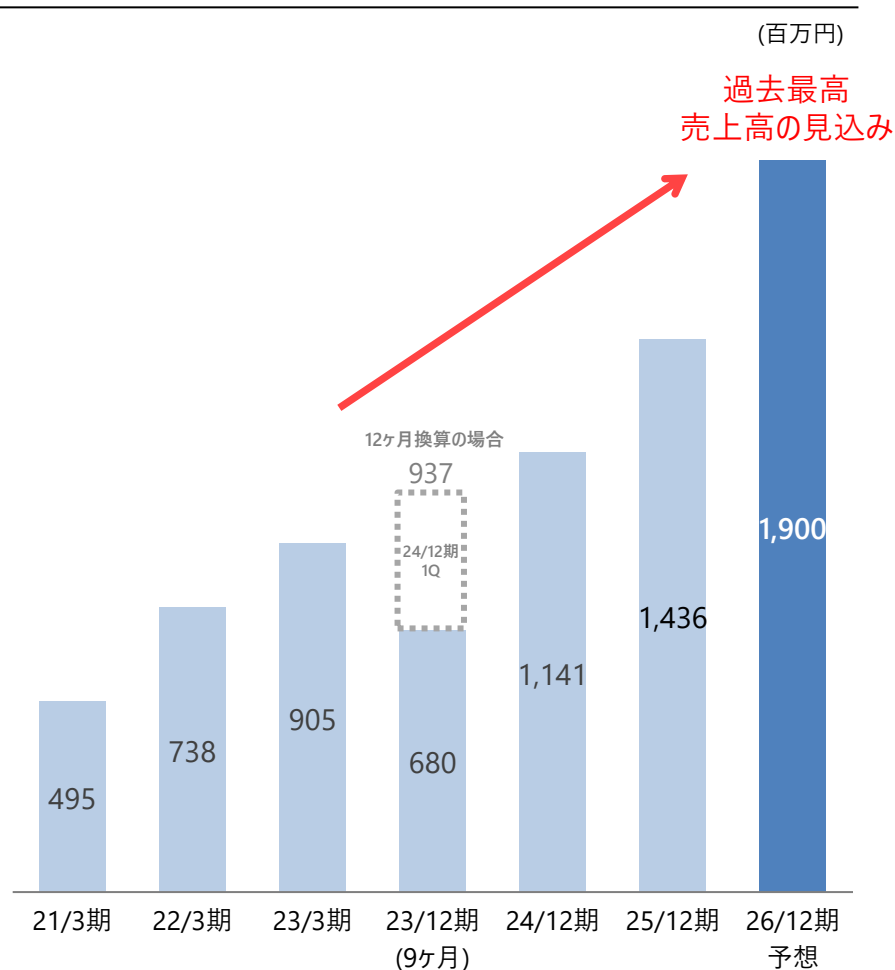
- 中長期での利益拡大のため、売上拡大を第一に注力し、売上高は過去最高の19億円、前期比+32.3%の大幅増の見通し
- 営業利益は2億円の前期比+16.9%を見込み、増収増益トレンドを継続。営業利益率は収益構造が異なるBreak’s社の連結により-1.4ptの低下を見込む。また、売上拡大のため+20名の人的リソース投資に注力予定

(百万円)	2023/12期 (9ヶ月)	2024/12期	2025/12期	2026/12期	
	実績	実績	実績	業績予想	前期比
売上高	680	1,141	1,436	1,900	+32.3%
営業利益	36	159	171	200	+16.9%
営業利益率	5.4%	14.0%	11.9%	10.5%	-1.4pt
経常利益	34	159	171	200	+16.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	24	116	121	140	+15.0%
従業員数	46	64	90	110	+20

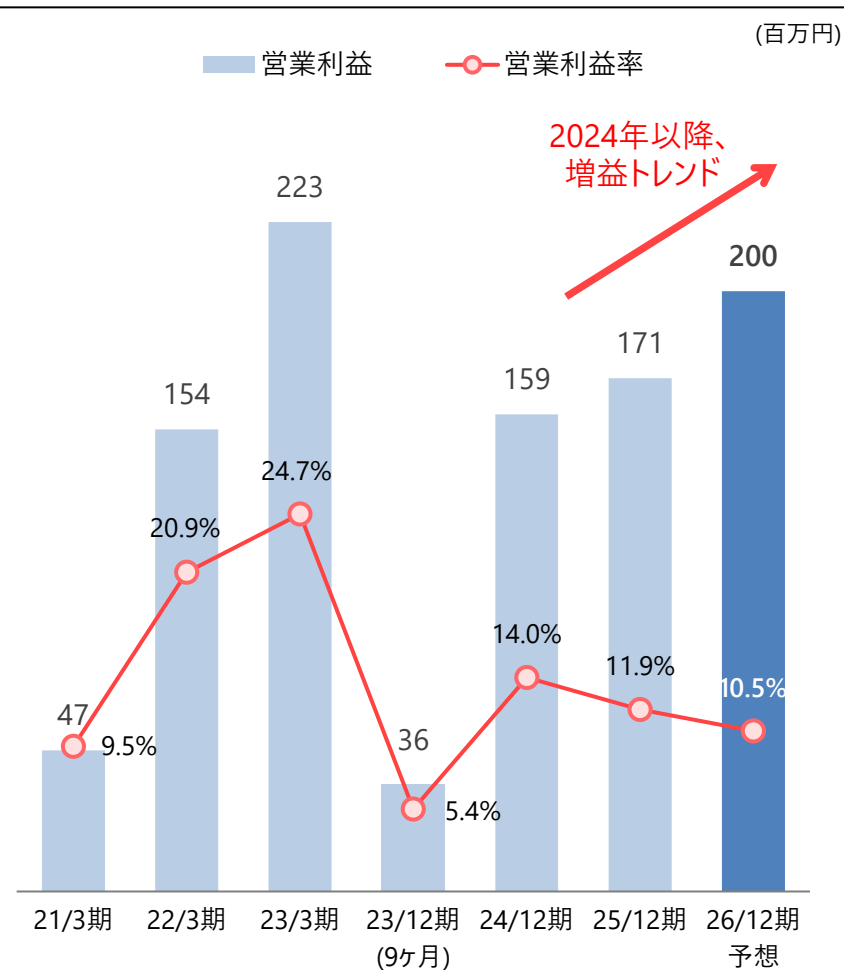
* 2025年12月期より連結決算に移行のため、2024年12月期以前は単体数値

売上高は2026年12月期も過去最高を更新予定、営業利益は増益トレンドを継続の見込み

売上高の推移



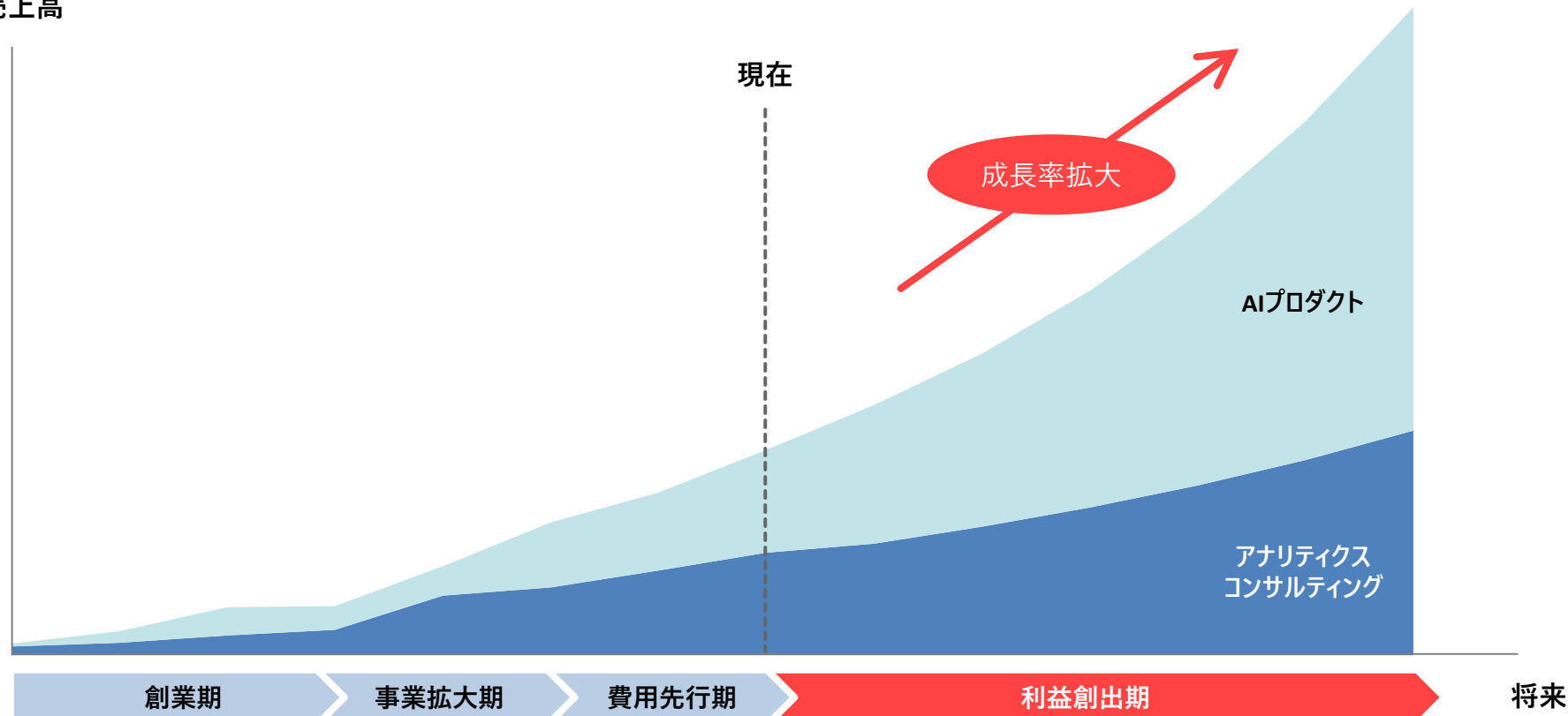
営業利益・営業利益率の推移



収益の安定性が高いAIプロダクト中心の事業構造への転換により成長率を拡大

- ・ フロー売上を中心としたアナリティクスコンサルティング等からストック売上を中心としたAIプロダクトへとシフト
- ・ 新AIプロダクトや既存プロダクトの拡販、共同事業の展開、採用ペース拡大等による成長率拡大を目指す

売上高



コンサル実績の蓄積とAIプロダクト開発による全方位での成長

- ✓ アナリティクスコンサルティングによるコンサルとAI構築実績の蓄積
- ✓ AI構築のノウハウを汎用化したAIプロダクトの開発と拡販
- ✓ 協業パートナーとの提携による安定的な顧客基盤の形成

収益の安定性が高いAIプロダクト中心の事業構造への転換

- ✓ 新AIプロダクト開発と既存プロダクト拡販の強化
- ✓ 採用ペース拡大、組織力強化による生産性向上
- ✓ 協業パートナーの拡大、既存パートナーとの提携深化

- 本資料において提供される情報には、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)が含まれております。これらは当社の現時点における予定、見込み又は予想に基づくものであり、様々なリスクや不確実性が内在しております。そのため、国内外の経済情勢や当社の関連する業界動向といった環境の変化等により、実際の結果が大きく異なる可能性があることにご留意ください。
- 本資料に含まれる当社以外に関する情報は公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれらを保証するものではありません。
- 端数の処理について、金額は切り捨て、%は四捨五入で表示しております。

<お問い合わせ先>

セカンドサイトアナリティカ株式会社

管理本部 IR担当宛

info-ir@sxi.co.jp